

一般国道 4 4 2 号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

福岡県八女市納楚所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第90集

2011

八女市教育委員会

一般国道442号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書VI

福岡県八女市^{のうそ}納楚所在遺跡の調査報告書

^{やなぎ}
柳遺跡(4次調査)

^{ふなぞこ}
船底遺跡(2次調査)

序

国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴い、平成13年度から当教育委員会では事業地内の埋蔵文化財発掘調査を進めております。

平成21年度は平成20年度に引きつづき八女市納楚地区の遺跡を中心に発掘調査を実施いたしました。その結果、弥生時代を中心として貴重な遺跡が発見され、この地域の文化を考える上で重要な成果をあげることができました。

発掘調査にあたりまして、終始ご協力いただきました福岡県、福岡県八女県土整備事務所、地元町内会、福岡県教育委員会をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

平成23年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- 1 一般国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴う発掘調査は、福岡県八女県土整備事務所の依頼を受け、平成13年度を初年度として毎年継続して実施しているが、本書は平成21年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書である。
- 2 発掘調査は、八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土した遺物の整理は岩戸山歴史資料館で行い、遺物も同所で保管している。
- 3 遺構の実測は、基本的には国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準としている。
- 4 本書に用いた写真は、(有) 空中写真企画に委託して製作し、各遺跡、遺構、遺物の写真は中川が撮影した。
- 5 本書の執筆、編集は中川が行った。

本文目次

1	はじめに	1
2	位置と環境	2
3	各遺跡の調査概要	5
1	柳遺跡（4次調査）7地点	5
	（1）調査の概要	
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	
2	船底遺跡（2次調査）	
	（1）調査の概要	22
	（2）遺構と遺物	
	（3）まとめ	

挿図目次

- 第1図 一般国道442号八女筑後バイパス 柳遺跡(4次調査)・船底遺跡(2次調査)と周辺の遺跡分布図[1/25,000]
- 第2図 一般国道442号八女筑後バイパス 柳遺跡(4次調査)・船底遺跡(2次調査) 調査位置図[1/2,500]
- 第3図 柳遺跡4次調査 遺構配置図[1/300]
- 第4図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB15・16) 実測図[1/60]
- 第5図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB17・18・24) 実測図[1/60]
- 第6図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB19~21) 実測図[1/60]
- 第7図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB22・23) 実測図[1/60]
- 第8図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB25~28・31) 実測図[1/60]
- 第9図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB29・32・33) 実測図[1/60]
- 第10図 柳遺跡4次 土壌(SK61~67・71) 実測図[1/40]
- 第11図 柳遺跡4次 土壌(SK68~70・72~76) 実測図[1/40]
- 第12図 柳遺跡4次 土壌(SK77~79・81~84) 実測図[1/40]
- 第13図 柳遺跡4次 土壌(SK85~88) 実測図[1/40]
- 第14図 柳遺跡4次 北側壁土層実測図[1/60]
- 第15図 船底遺跡2次調査 遺構配置図[1/300]
- 第16図 船底遺跡2次 竪穴住居(SB01~09) 実測図[1/60]
- 第17図 船底遺跡2次 土壌(SK01~03) 実測図[1/40]
- 第18図 船底遺跡2次 溝(SD01・02) 実測図[1/60]
- 第19図 船底遺跡2次 中央南側壁土層実測図[1/60]
- 第20図 船底遺跡2次 竪穴住居(SB01~03・05)、土壌(SK01・03) 出土土器実測図[1/4]
- 第21図 船底遺跡2次 溝(SD01・02)、ピット(P11) 出土土器実測図[1/4]
- 第22図 船底遺跡2次 竪穴住居(SB01・03)、溝(SD01)、ピット(P01)、表採 出土土製品・石製品実測図[1/2]
- 第23図 船底遺跡2次 竪穴住居(SB01)、溝(SD01・02) 出土玉類実測図[1/1]
- 第24図 船底遺跡2次 ピット(P22)、トレンチ 出土石製品実測図[1/3]
- 第25図 船底遺跡2次 竪穴住居(SB03)、溝(SD01) 出土石製品実測図[1/4]

表目次

- 表1 船底遺跡2次 SB・SK・SD・ピット 出土土器観察表
- 表2 船底遺跡2次 SB・SD・表採 出土土製品観察表
- 表3 船底遺跡2次 SB・SD 出土玉類観察表
- 表4 船底遺跡2次 SB・SD・ピット・トレンチ 出土石製品観察表

図版目次

図版 1	(1) 柳遺跡 4 次・船底遺跡 2 次 発掘調査前 航空写真
	(2) 柳遺跡 4 次・船底遺跡 2 次 航空写真
図版 2	(1) 柳遺跡 4 次 発掘前風景 (東から)
	(2) 柳遺跡 4 次 航空写真
図版 3	(1) 柳遺跡 4 次 東側全景 (西から)
	(2) 柳遺跡 4 次 発掘調査風景
図版 4	(1) 柳遺跡 4 次 S B 1 5
	(2) 柳遺跡 4 次 S B 1 6
	(3) 柳遺跡 4 次 S B 1 7
	(4) 柳遺跡 4 次 S B 1 8・2 4
図版 5	(1) 柳遺跡 4 次 S B 1 9・2 2・2 3
	(2) 柳遺跡 4 次 S B 2 0
	(3) 柳遺跡 4 次 S B 2 1
	(4) 柳遺跡 4 次 S B 2 5
図版 6	(1) 柳遺跡 4 次 S B 2 6
	(2) 柳遺跡 4 次 S B 2 7
	(3) 柳遺跡 4 次 S B 2 8
	(4) 柳遺跡 4 次 S B 2 9
図版 7	(1) 柳遺跡 4 次 S B 3 2
	(2) 柳遺跡 4 次 S B 3 3
	(3) 柳遺跡 4 次 S K 6 4
	(4) 柳遺跡 4 次 S K 6 5
図版 8	(1) 柳遺跡 4 次 S K 6 7
	(2) 柳遺跡 4 次 S K 7 2
	(3) 柳遺跡 4 次 S K 7 4
	(4) 柳遺跡 4 次 S K 7 5
図版 9	(1) 柳遺跡 4 次 S K 8 8
	(2) 柳遺跡 4 次 S D 1 7
	(3) 柳遺跡 4 次 S D 1 6
図版10	(1) 柳遺跡 4 次 S B 2 2 出土石製品
	(2) 柳遺跡 4 次 S B 2 8 出土土器
	(3) 柳遺跡 4 次 S B 3 3 出土土器
	(4) 柳遺跡 4 次 S D 1 7 出土土器
図版11	(1) 船底遺跡 2 次 航空写真
	(2) 船底遺跡 2 次 全景 (西から)
図版12	(1) 船底遺跡 2 次 S B 0 1～0 6
	(2) 船底遺跡 2 次 S B 0 7
	(3) 船底遺跡 2 次 S B 0 8
	(4) 船底遺跡 2 次 S B 0 3 出土土器
図版13	(1) 船底遺跡 2 次 S K 0 1
	(2) 船底遺跡 2 次 S K 0 1
	(3) 船底遺跡 2 次 S K 0 2 (手前)
	(4) 船底遺跡 2 次 S K 0 3
図版14	(1) 船底遺跡 2 次 S D 0 1
	(2) 船底遺跡 2 次 S D 0 2
	(3) 船底遺跡 2 次 S D 0 1・S D 0 2 土層

1 はじめに

一般国道442号八女筑後バイパスは、すでに供用されている八女市都市計画道路室岡平田線と一体となつて、八女筑後両市内の交通混雑の解消を目的として事業計画された。

これまで事業予定地には、周知の遺跡のほか数多くの文化財の包蔵が予想されたため、福岡県土木事務所（現：福岡県八女県土整備事務所）と協議を重ね、平成13年2月14日付で発掘調査の依頼が八女市教育委員会に提出された。これを受けて八女市教育委員会では、事業地内の発掘調査を実施することとし、同日福岡県土木事務所との間で委託契約書を締結し、以後毎年継続して発掘調査を行っている。

これまでの経過については、平成13年度は八女市室岡地区に所在する西山ノ上遺跡、四丁堀遺跡の7,100㎡の発掘調査を実施し、平成14年度には室岡、亀甲地区に所在する志計遺跡、折部屋敷遺跡、田代遺跡、四丁堀遺跡（2次調査）、中道遺跡、三反畑遺跡、西山ノ上遺跡（2次調査）、室岡・山ノ上遺跡、後田遺跡について発掘調査を実施した。

平成15年度は八女市の室岡、亀甲、蒲原地区に所在する西山ノ上遺跡（3次調査）、室岡・山ノ上遺跡（2次調査）、亀ノ甲・山ノ上遺跡、後田遺跡（2次調査）、蒲原・植初遺跡の5遺跡について発掘調査を実施した。

平成16年度には前年度に引き続き八女市の亀甲、蒲原地区に所在する亀ノ甲・山ノ上遺跡（2次調査）、亀ノ甲・西ノ前遺跡、後田遺跡（3次調査）、亀ノ甲・植初遺跡、蒲原・植初遺跡（2次調査）について発掘調査を実施している。

平成17年度は発掘調査の中心が、バイパス東端である納楚地区に移り、柳遺跡、楠町遺跡について発掘調査を実施し、並行して平成13年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書の作成を行った。

平成18年度は前年度に引き続き八女市納楚地区に所在する柳遺跡（2次調査）、楠町遺跡（2次調査）のほか亀甲地区に所在する後田遺跡（4次調査）、亀ノ甲・植初遺跡（2次調査）について発掘調査を実施し、並行して平成14年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書の作成を行った。

平成19年度は亀甲、蒲原、大島、納楚地区に所在する亀ノ甲・植初遺跡（3次調査）、僧都遺跡、蒲原・植初遺跡（3次調査）、後田遺跡（5次調査）、茶ノ木田遺跡、楠町遺跡（3次調査）、牟田田遺跡、柳遺跡（3次調査）について発掘調査を実施し、並行して平成15年度・16年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書の作成を行った。

平成20年度は、亀甲、大島、納楚地区に所在する後田遺跡（6次調査）、今屋敷遺跡、船底遺跡の発掘調査と並行して、平成15年度・17年度～18年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書を作成した。

平成21年度は納楚地区に所在する柳遺跡（4次調査）、船底遺跡（2次調査）の発掘調査と並行して平成18年度～20年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書を作成した。

平成22年度は大島、納楚地区に所在する遺跡の発掘調査と並行して平成21年度に発掘調査を実施した遺跡の調査報告書を作成した。

平成21年度及び平成22年度の調査・報告に関わる関係者は次のとおりである。

平成21年度（1月31日まで）

八女市教育委員会

教育長	中島 清志
社会教育課課長	飯田せつ子
社会教育課参事補佐	江崎 邦博
社会教育課文化財係長	赤崎 敏男
同係員	中川寿賀子
	大塚 恵治

平成22年度

八女市教育委員会

教育長	西島 民生
教育部長	飯田せつ子
文化課課長	井上 富雄
文化課文化財係長	中川寿賀子
同係員	大塚 恵治
	永田 寧
	渡部 真弓

平成21年度（2月1日から）

八女市教育委員会

教育長	中島 清志
教育部長	飯田せつ子
文化課課長	井上 富雄
文化課文化財係長	赤崎 敏男
同主任	中川寿賀子
同係員	大塚 恵治
	永田 寧
	樋口 真弓

2 位置と環境

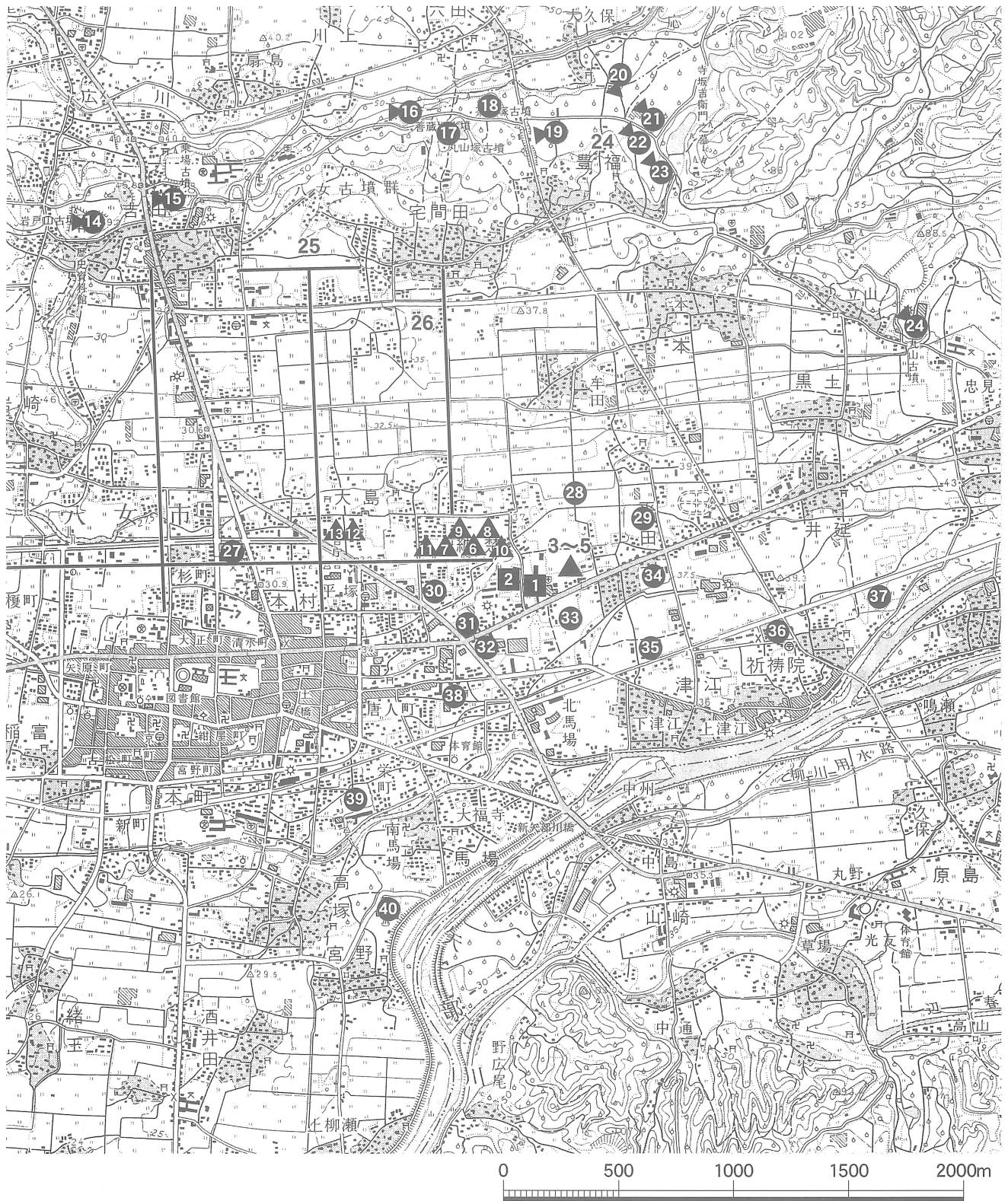
八女丘陵の南側には洪積台地下に沖積地が広がり、広大な平野を形成している。国道3号と国道442号の交差する八女市納楚から忠見にかけて、国道442号南側では矢部川が氾濫を繰り返した痕跡がよく残り、北側では標高36mから37mとほぼ平坦な水田が広がっている。

一般国道442号八女筑後バイパスは、現国道の北側にほぼ平行して八女市を東西に横断、国道3号と交差し、八女市納楚付近で現在の442号と合流する。

平成21年度は、平成17年度～19年度に発掘調査が実施された柳遺跡1地点から6地点（第2図）西側のすでに関収が終了している部分を中心として発掘調査を実施し、市道納楚牟田線から東側を柳遺跡4次調査とし西側を小字名が異なるため船底遺跡2次調査として2遺跡の発掘調査を実施した。

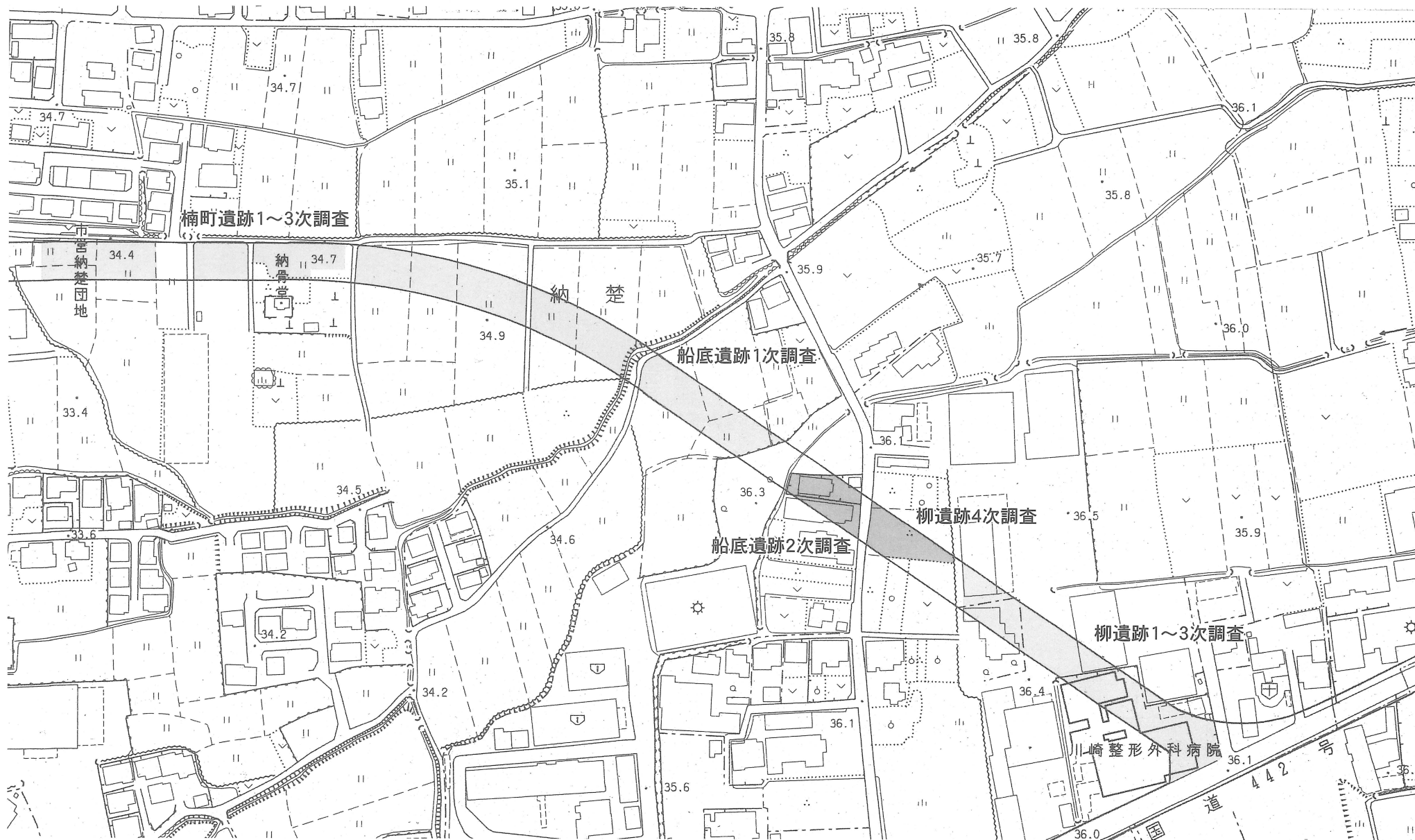
納楚地区周辺は市街地化が進んでおり、開発に伴って数多くの発掘調査が行なわれ、貴重な遺跡が発見されている。納楚地区には納楚遺跡群が広がっており、弥生時代から歴史時代にかけての散布地となっている。

柳遺跡の南西350mには平成3年度に発掘調査が実施された熊野遺跡があり、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡と墳墓が見つかった。また、柳遺跡の東側の水田地帯は、平成6年度～平成10年度まで県営担い手育成基盤整備事業八女東部地区が実施されており、それに伴う発掘調査が行われ平田・六反田遺跡や平田・野内遺跡などの弥生時代の集落や古墳時代の豪族居館等が見つかった。



1.柳遺跡4次 2.船底遺跡2次 3.柳遺跡 4.柳遺跡2次 5.柳遺跡3次 6.楠町遺跡 7・8.楠町遺跡2次 9.楠町遺跡2次 10.船底遺跡 11.牟田田遺跡 12.今屋敷遺跡 13.茶ノ木田遺跡 (1～13:一般国道442号八女筑後バイパス関係) 14.岩戸山古墳 15.乗場古墳 16.善蔵塚古墳 17.丸山塚古墳 18.茶臼塚古墳 19.鶴見山古墳 20～23.釘崎古墳 24.丸山古墳 25.長峰地区条里 26.吉田地区条里 27.福島中学校校庭遺跡 28.平田・六反田遺跡 29.平田・北ノ前遺跡 30.万上田遺跡 31.赤氏遺跡 32.熊野遺跡 33.高島遺跡 34.後ノ江遺跡 35.津ノ江遺跡 36.祈祷院遺跡、白石遺跡 37.高野町遺跡 38.鈍土羅石棺、本町遺跡 39.南中学校校庭遺跡 40.鍛冶屋遺跡

第1図 一般国道442号八女筑後バイパス 柳遺跡(4次調査)・
船底遺跡(2次調査)と周辺の遺跡分布図[1/25, 000]



3 各遺跡の調査概要

1 柳遺跡（4次調査）7地点

（1）調査の概要

柳遺跡（4次調査）7地点は、八女市納楚字柳に所在する遺跡で、矢部川・星野川によって形成された扇状地に位置し、標高36m前後の低位段丘面に所在しており、発掘調査以前は畑地であった。

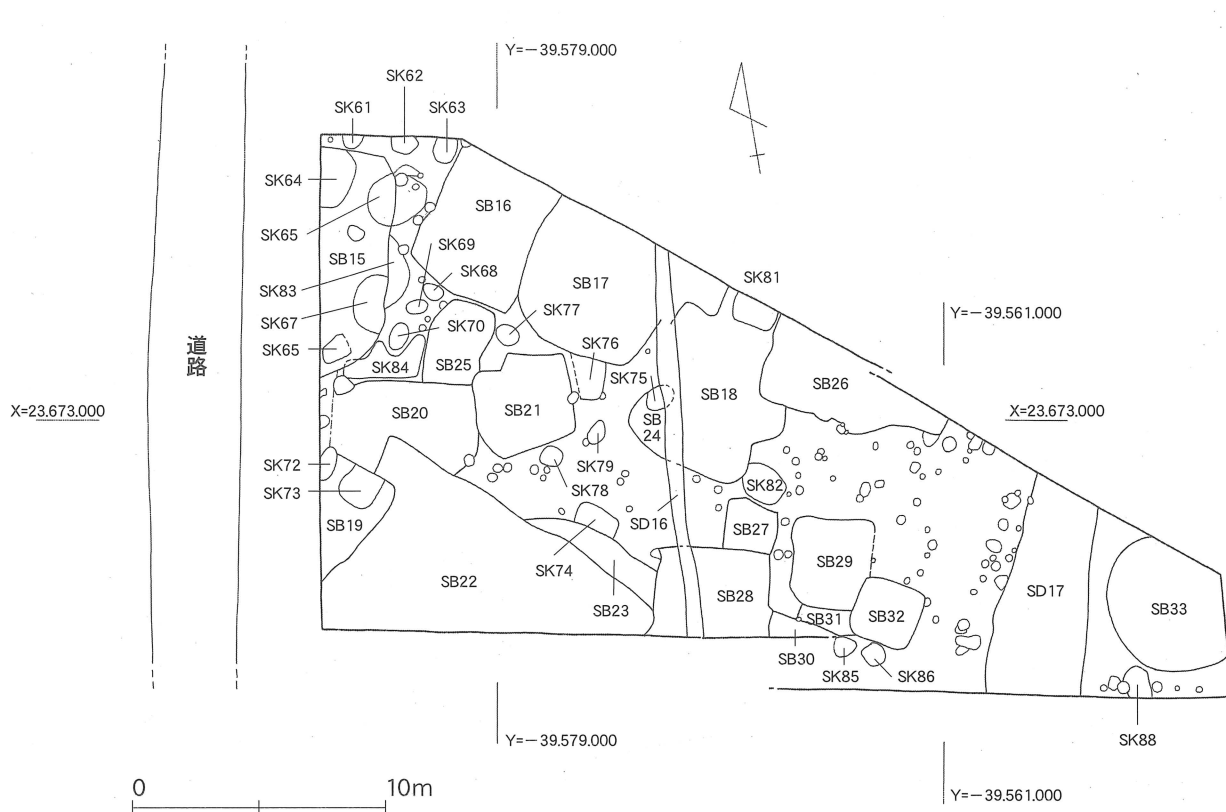
本遺跡の周辺は開発に伴って発掘調査が実施され、弥生時代の遺跡が数多く発見されている。平成8年度には、国道442号線南側の老人保健施設建設に伴う発掘調査が実施され、弥生時代中期の集落跡が検出された。発掘調査により竪穴住居、土壇、溝が発見され、大量の土器や石器が出土している。また、平成11年度にはその老人保健施設の北側に医療法人社団慶仁会川崎病院が移転するため発掘調査が実施され、弥生時代中期の集落跡から竪穴住居、取水土壇、土壇、溝などが発見された。

柳遺跡の発掘調査は、平成17年度に1次調査として国道3号の北側を1～3地点とし発掘調査を実施し、平成18年度には2次調査として1次調査の西側を4～5地点として発掘調査を実施した。また、平成19年度には3次調査として4地点と5地点の間を6地点として発掘調査を実施した。

今回の4次調査は平成18年度に発掘調査が実施された柳遺跡（2次調査）5地点の西側に隣接する区域を対象地として行われた。5地点の発掘調査では、弥生時代中期の集落跡が発見されており、竪穴住居4軒、土壇28基、溝3条とその他多数の柱穴が確認されている。今回の調査ではこれまでの発掘調査で発見された弥生時代の集落の広がりを示す遺跡が見つかった。

（2）遺構と遺物

今回発見された遺構は、弥生時代から歴史時代にかけての竪穴住居19軒、土壇28基、溝2条が検出された。



第3図 柳遺跡4次調査 遺構配置図[1/300]

竪穴住居（S B）

S B 1 5（第4図・図版4）

調査区北西部の西の端に位置し、西側は調査区外に及ぶ。平面形は不明であるが、確認出来ているところで1辺の長さは9mである。床面までの深さは約26cmである。

主な出土遺物は、土器では弥生中期前半の甕、蓋、鉢、高杯が出土している。土製品としては投弾が出土しており、石器は片岩製の石包丁と砥石が出土している。

S B 1 6（第4図・図版4）

調査区北西部に位置し、北側は調査区外に及ぶ。平面形は長方形になると考えられ、残存する長軸は5.5m、短軸は4.5mである。床面までの深さは約24cmである。

主な出土遺物は、土器は弥生式土器の壺、甕、鉢が出土している。土製品としては投弾が出土しており、石器はサヌカイト製の石鏃が出土している。

S B 1 7（第5図・図版4）

調査区北西部に位置し、北側は調査区外に及ぶ。隅が丸く、平面形は方形か長方形になると考えられる。長軸は残存するところで5.8m、短軸は5.3mで円形である可能性も考えられる。床面までの深さは26cmである。東側はS D 1 6に切られる。

出土遺物は、土器は弥生式土器の壺、甕、蓋が出土している。土製品としては投弾が出土しており、石器は黒曜石製の石鏃、粘板岩製の石柱状片刃石斧、砥石が出土している。

S B 1 8（第5図・図版4）

調査区の中央部に位置する。S D 1 6に切られる。東西の長さは5.2mで残りが悪く、規模については不明である。

出土遺物は、土器は弥生式土器の壺、甕が出土しており、石器は片岩製の石包丁が出土している。

S B 1 9（第6図・図版5）

調査区南西隅に位置し遺構の大部分が西側の調査区外に及ぶ。平面形は方形か長方形と思われる。床面までの深さは約30cmである。

出土遺物は、土器は弥生式土器の壺、甕、鉢が出土しており、石器は砥石が出土している。

S B 2 0（第6図・図版5）

調査区の西部に位置する。平面形は長方形と思われるが、南側をS B 1 9とS B 2 2に切られる。規模は長軸が6.5m、短軸が3.6mである。床面までの深さは19cmである。住居の中央に炉を有する。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕、手捏土器が出土している。石器はサヌカイト製の石匙、片岩製の石包丁、砥石が出土している。

S B 2 1（第6図・図版5）

調査区西部に位置する。平面形は、方形に近い長方形で規模は長軸が4.2m、短軸が3.8mである。床面までの深さは約14cmである。南東隅にカマドが付設されている。

出土遺物は、土師器の壺、須恵器の杯蓋が出土している。

S B 2 2（第7図・図版5）

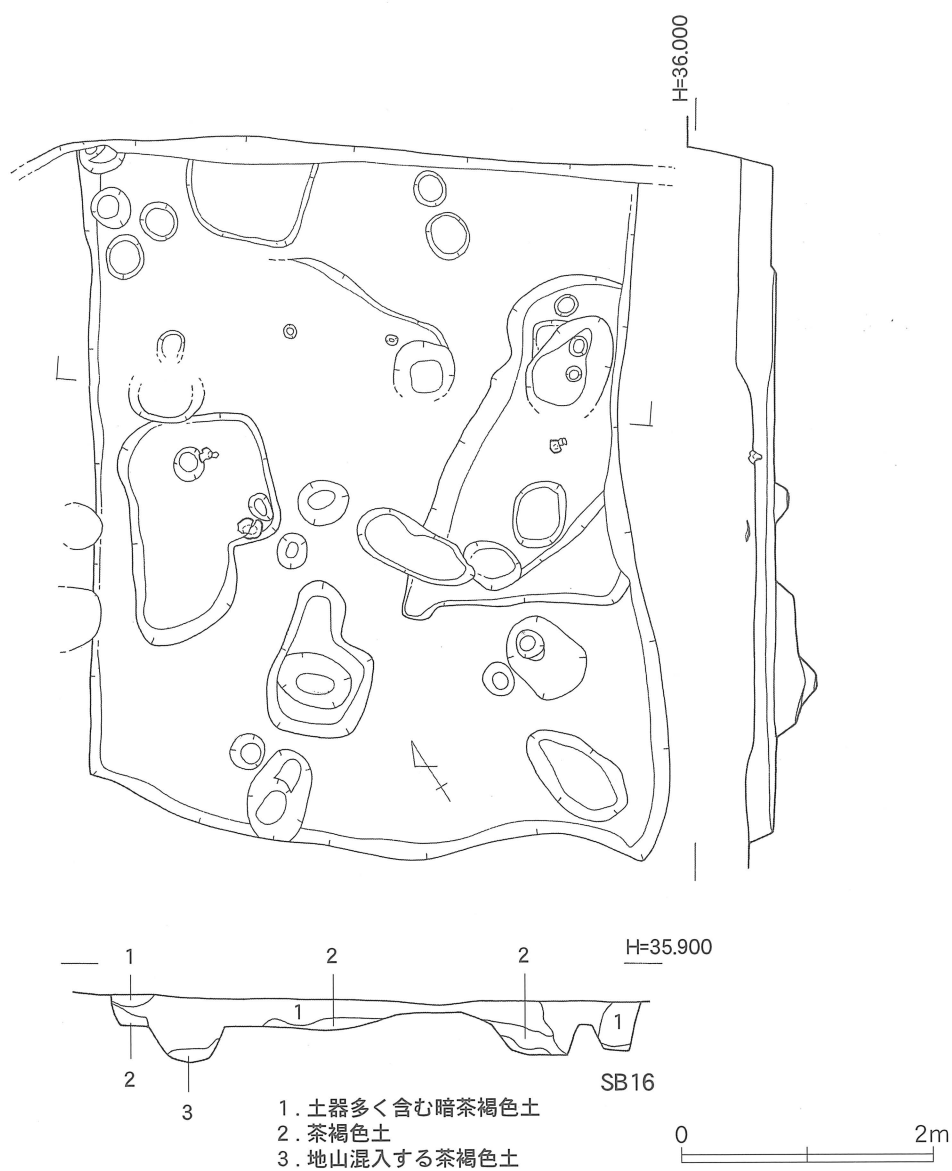
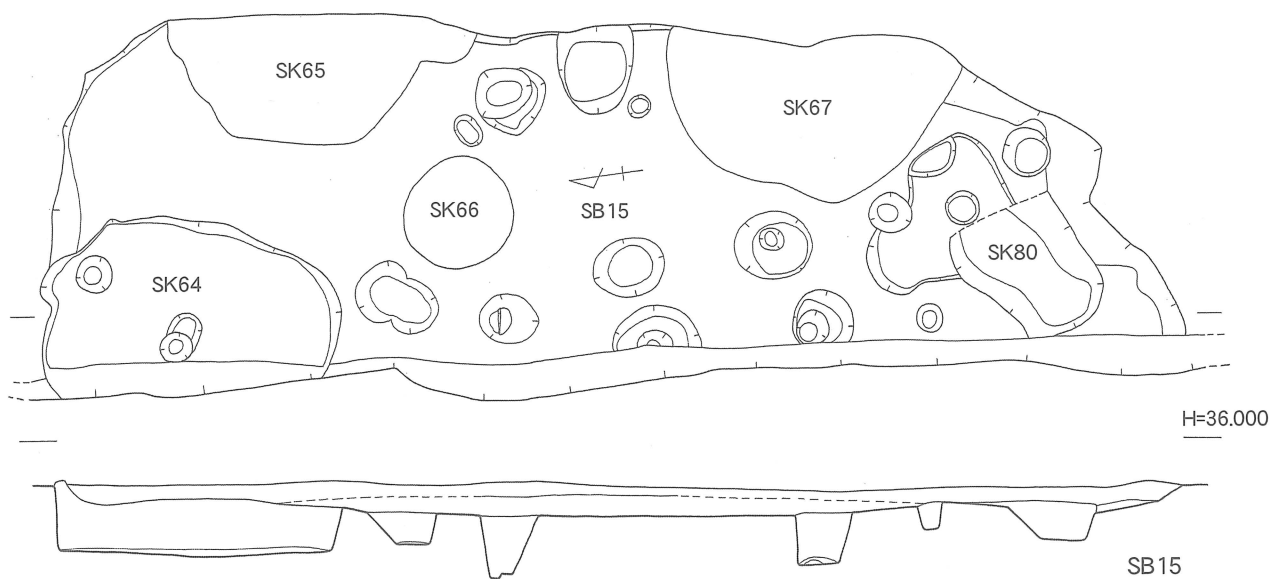
調査区南西部隅に位置する。平面形は長方形と考えられ南側は調査区外に及ぶ。確認できたところで1辺が約13mあり、他の遺構と重複している可能性もある。西側はS B 1 9に切られる。床面までの深さは30cmである。

出土遺物は、土器は弥生式土器の脚付壺、甕、鉢、高杯、手捏土器が出土している。石器は縄文時代の石器である十字型石器、黒曜石製とサヌカイト製の石鏃、砥石、くぼみ石が出土している。

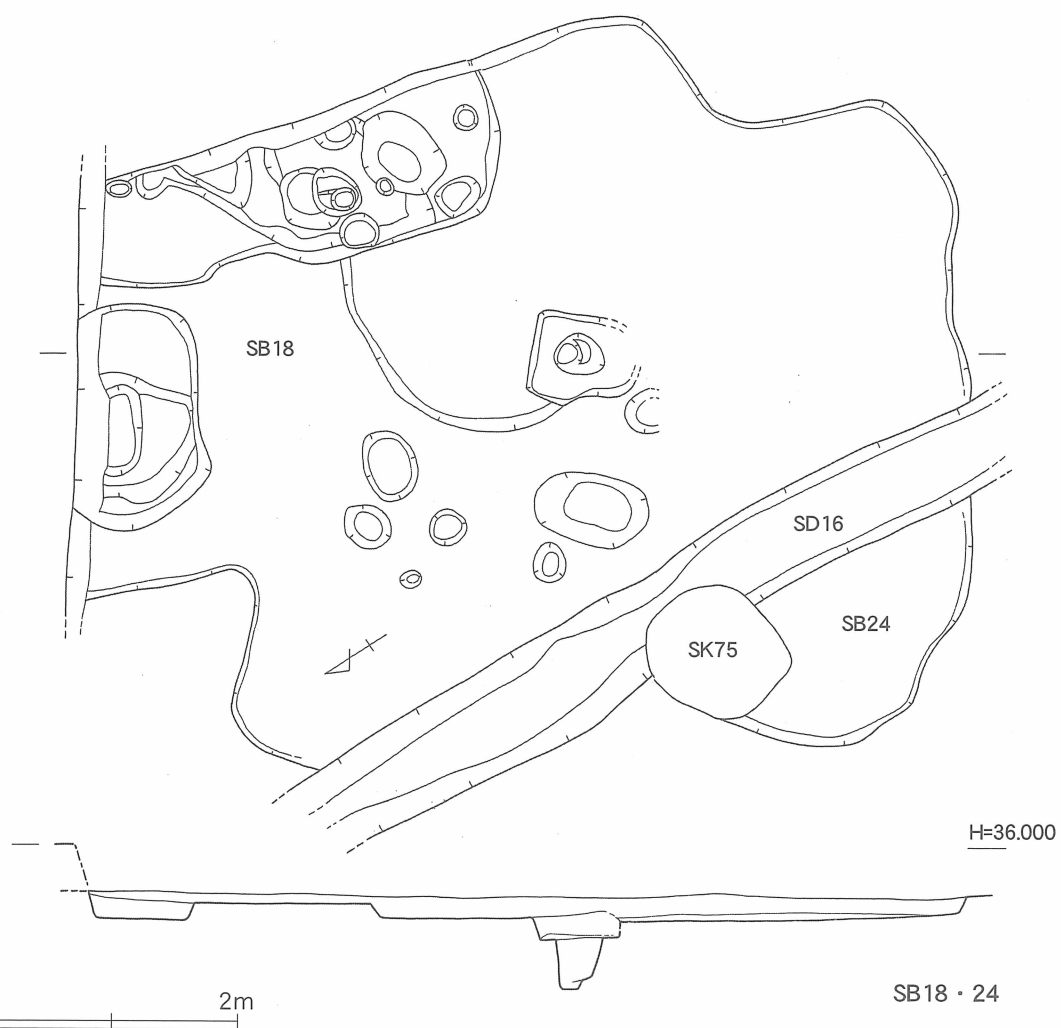
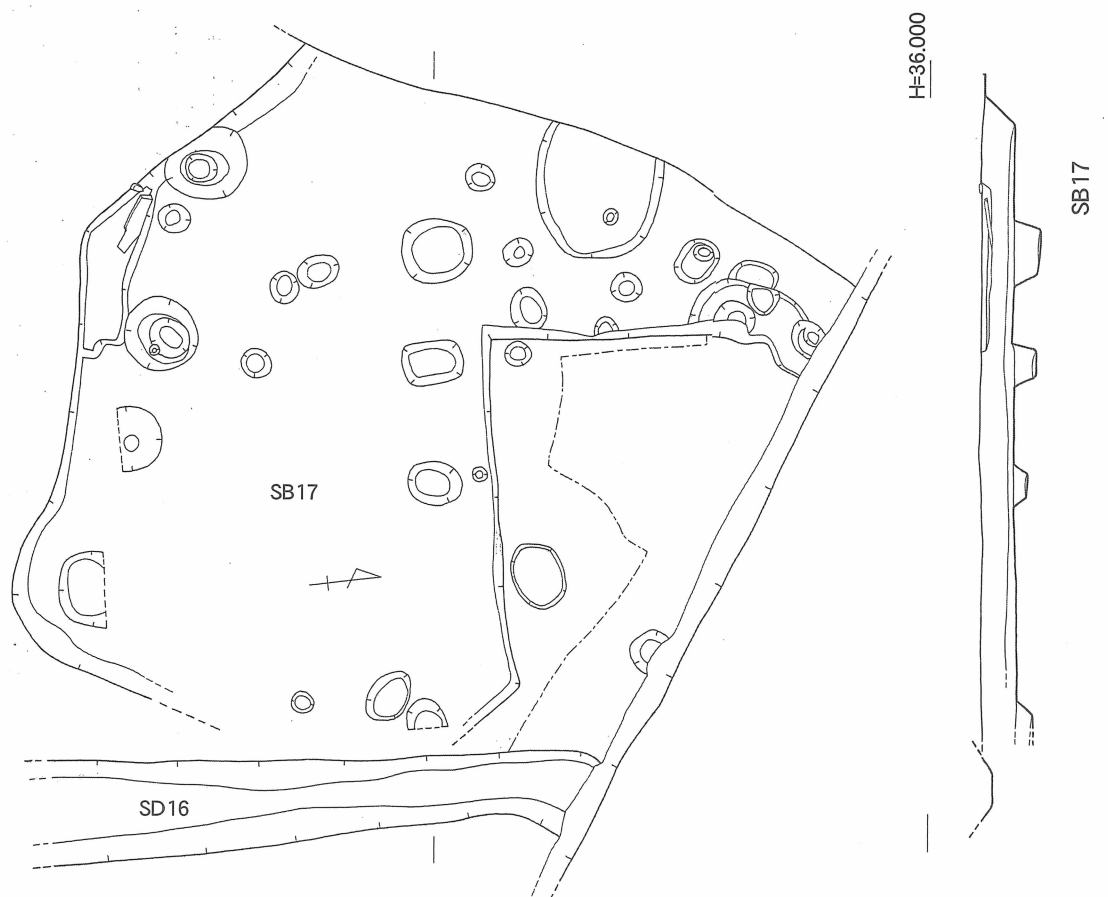
S B 2 3（第7図・図版5）

調査区南西部に位置する。平面形については、1部しか検出できていないため不明であるが円形とでも考えられる。床面までの深さは28cmである。南側はS B 2 2に切られ、東側はS B 2 8に切られる。

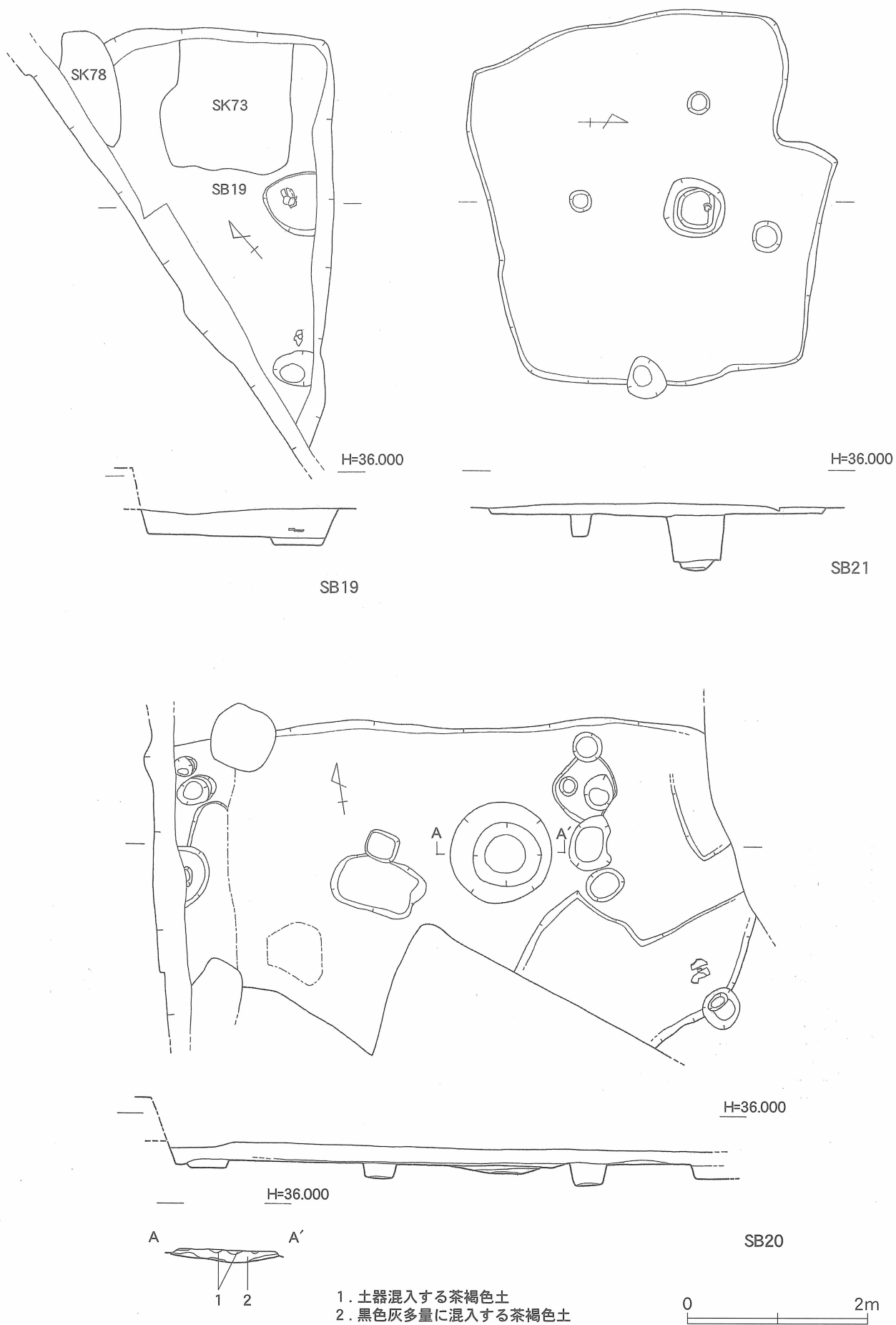
出土遺物は、土器は弥生式土器の甕、鉢が出土している。石器は緑泥片岩製の紡垂車が出土している。



第4図 柳遺跡4次 竪穴住居（SB15・16）実測図[1/60]



第5図 柳遺跡4次 竪穴住居（SB17・18・24）実測図〔1／60〕



第6図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB19~21) 実測図 [1/60]

S B 2 4 (第5図・図版4)

調査区中央部に位置する。平面形は長方形と考えられる。確認できたところで、1辺が約5.3mである。床面までの深さは16cmと浅い。北側はS B 1 8に切られ、東側はS B 2 6に切られる。

出土遺物は、弥生式土器の壺が出土している。

S B 2 5 (第8図・図版5)

調査区西部に位置する。平面形は長方形である。長軸は3.2mで短軸は2.4mと小型である。床面までの深さは12cmである。遺物は出土していない。

S B 2 6 (第8図・図版6)

調査区中央部の北側壁面に位置する。北側は調査区外に及ぶ。平面形は長方形と思われる。確認できたところで1辺が7mである。床面までの深さは0.6cmとかなり浅い。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕、蓋が出土している。石器は黒曜石製とサヌカイト製の石鏃、扁平片刃石斧、砥石が出土している。

S B 2 7 (第8図・図版6)

調査区中央部に位置する。平面形は方形である。1辺は約2.1mと小型で、床面までの深さは約10cmである。遺物は出土していない。

S B 2 8 (第8図・図版6)

調査区中央部の南側壁面に位置する。南側は調査区外に及ぶ。平面形は方形と考えられる。確認できたところで1辺は4.6mである。床面までの深さは8cmである。S D 1 6に切られる。本遺構の北西隅付近の外側部分から赤色顔料が出土している。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕丹塗の甕鉢が出土している。石器は片岩製の片刃石斧が出土している。

S B 2 9 (第9図・図版6)

調査区中央部に位置する。平面形は方形である。1辺が3.5mである。床面までの深さは5cmである。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕が出土している。石器は黒曜石製とサヌカイト製の石鏃が出土している。

S B 3 0

調査区中央部の南側壁面に位置する。南側は調査区外に及ぶ。一部しか検出していないが、確認できたところで1辺が約3mである。床面までの深さは6cmと浅い。遺物は出土していない。

S B 3 1 (第8図)

調査区中央部の南側に位置する。平面形は北側はS B 2 9に切られ、東側はS B 2 2に切られ、南側はS B 3 0に切られているため不明である。床面までの深さは10cmである。遺物は出土していない。

S B 3 2 (第9図・図版7)

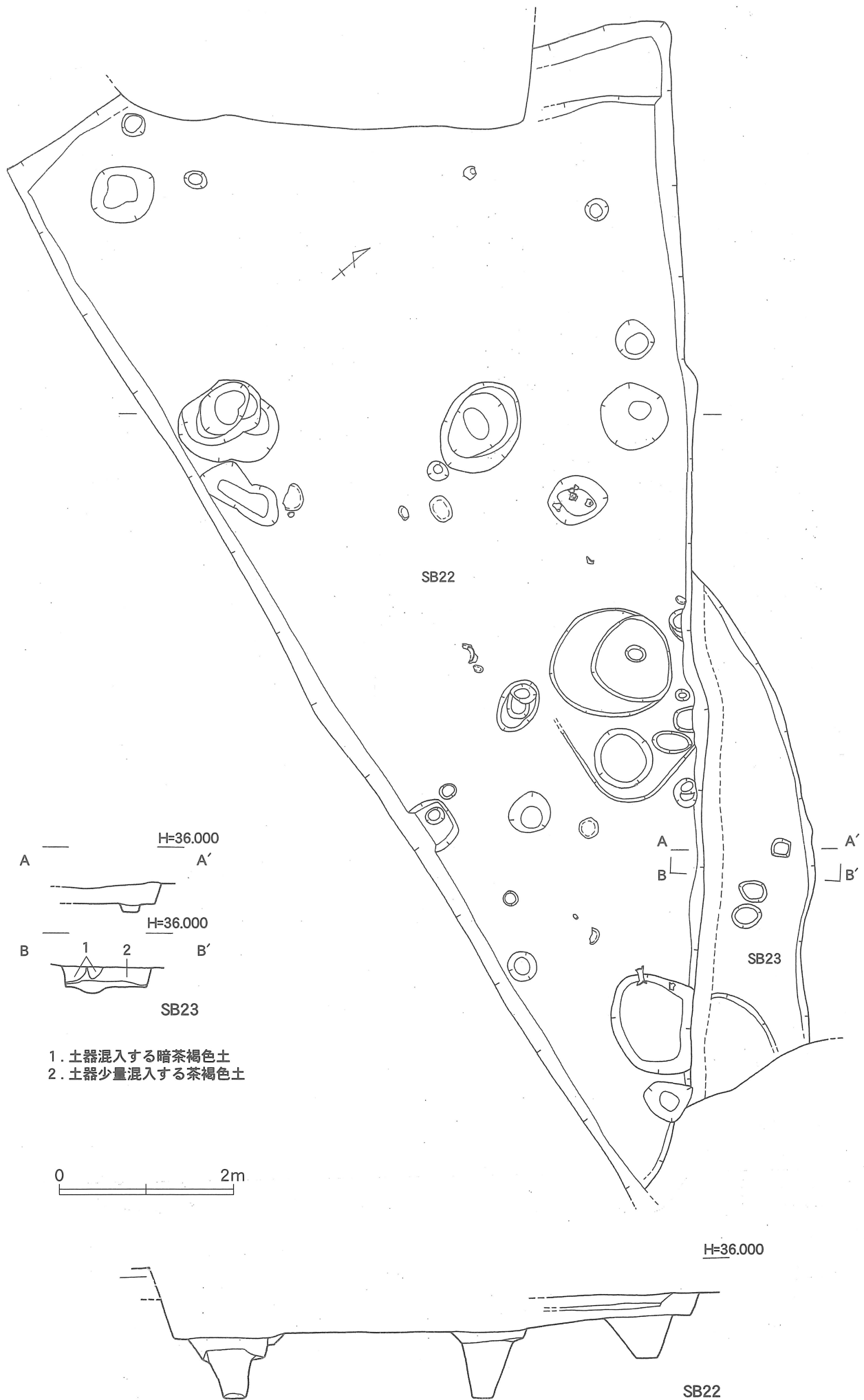
調査区中央部の南側に位置する。南側は調査区外に及ぶ。平面形は方形である。1辺が2.5mである。床面までの深さは10cmである。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕が出土している。石器は黒曜石製の石鏃が出土している。

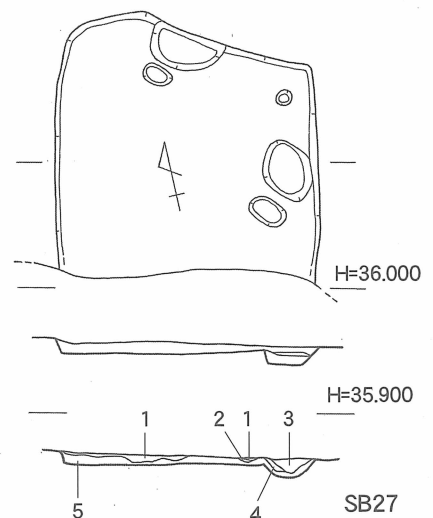
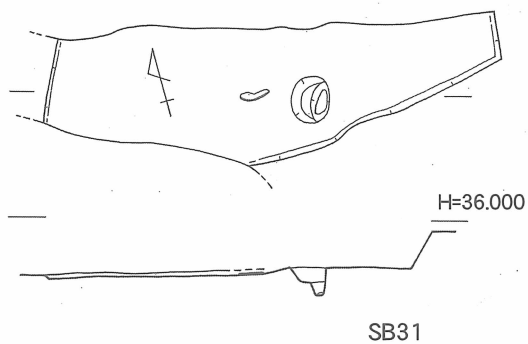
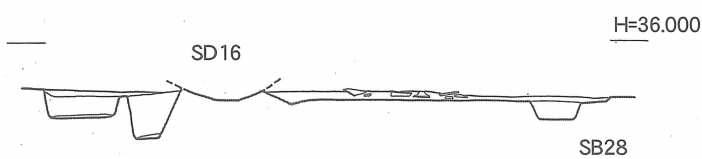
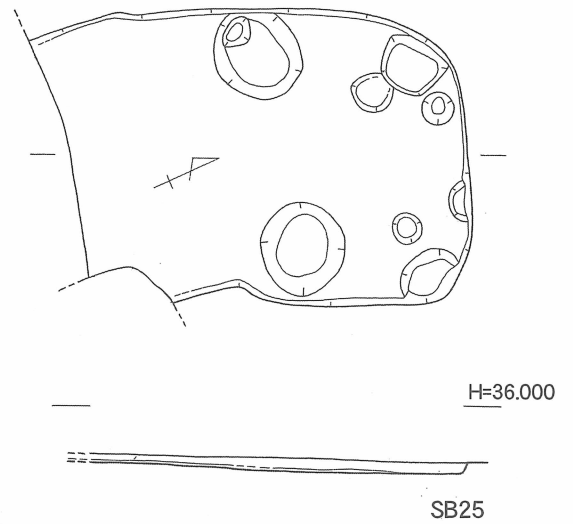
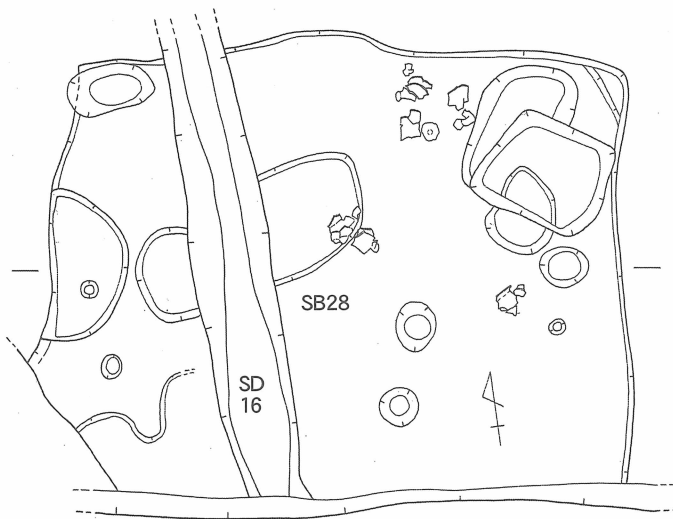
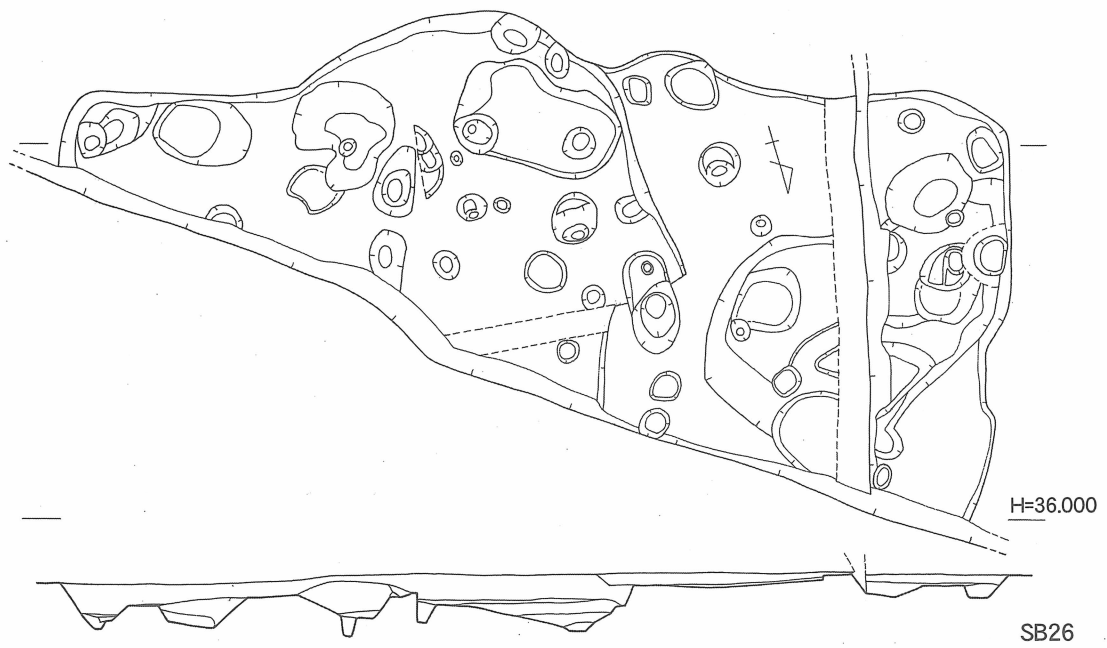
S B 3 3 (第9図・図版7)

調査区東部に位置する。北側と東側は調査区外に及ぶ。平面形は円形である。径は約6mである。床面の深さは10cmと残りが悪い。平成17年度に発掘調査が実施された柳遺跡1地点の1号住居は径が4.1mで本竈穴住居より若干小さめだが同時期と考えられる。中央に楕円形の炉らしき土壇を検出しているが柱穴は確定できなかった。

出土遺物は、土器では弥生式土器の甕、鉢、器台、高杯が出土している。石器では黒曜石製の石鏃が出土している。



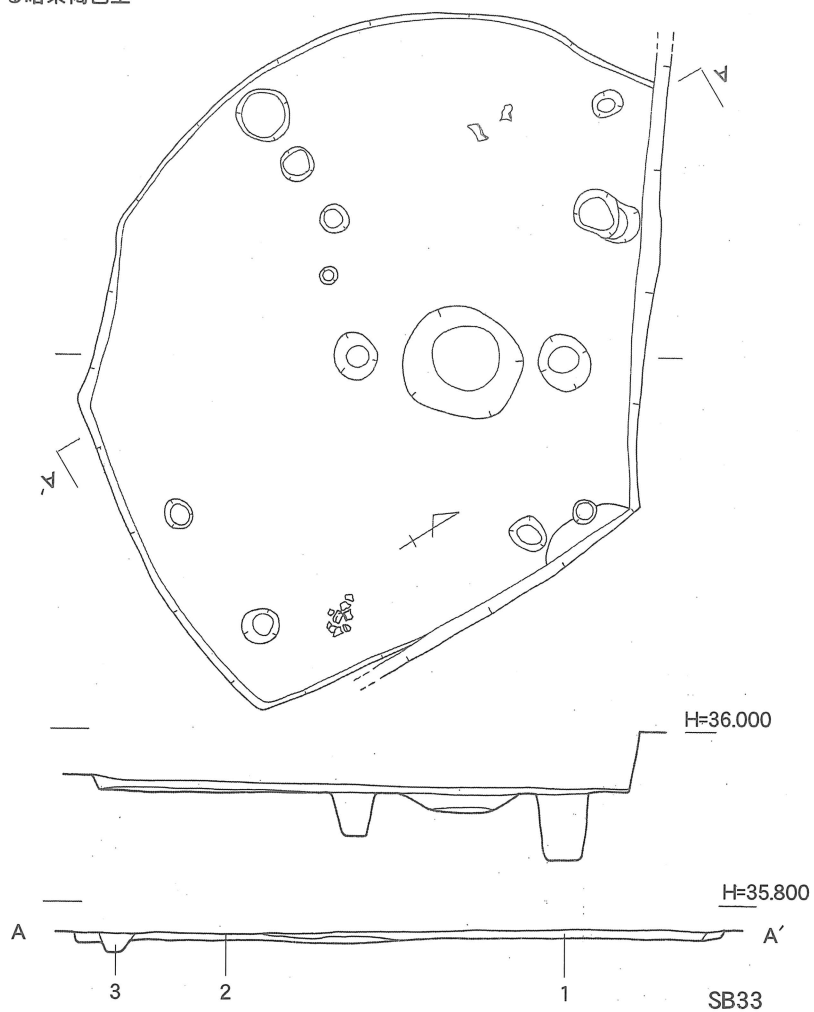
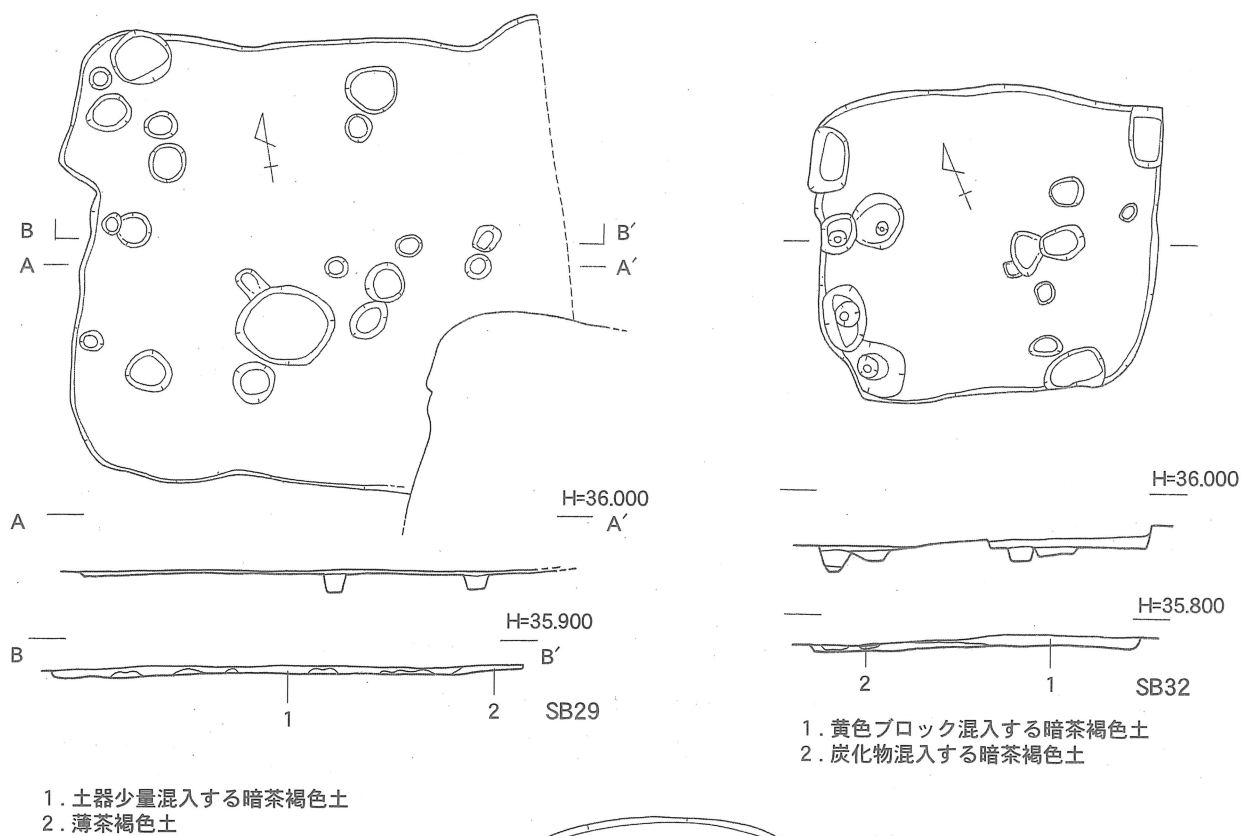
第7図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB22・23) 実測図 [1/60]



1. 灰色ブロック混入する暗茶褐色土
2. 黒色灰焼土
3. 土器混入する暗茶褐色土
4. 灰茶褐色土
5. 薄茶褐色土

0 2m

第8図 柳遺跡4次 竪穴住居（SB25～28・31）実測図〔1／60〕



0 2m

第9図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB29・32・33) 実測図 [1/60]

土墳 (SK)

SK 6 1 (第 1 0 図)

調査区北西隅部に位置し、北側は調査区外に及ぶ。平面形は不明である。床面までの深さは約 1 0 c m で東側に深さ 5 4 c m のピットがある。遺物は出土していない。

SK 6 2 (第 1 0 図)

調査区北西部に位置し、北側は調査区外に及ぶ。平面形は不明である。床面までの深さは 8 c m と浅く西側に深さ 2 6 c m のピットがある。遺物は出土していない。

SK 6 3 (第 1 0 図)

調査区北西部に位置し、北側は調査区外に及ぶ。平面形は不明である。床面までの深さは 1 0 c m で、遺構内に 2 つのピットを有する。

出土遺物は、弥生式土器の甕、蓋が出土している。

SK 6 4 (第 1 0 図・図版 7)

調査区北西隅部に位置し、西側は調査区外に及ぶ。平面形は不明である。床面までの深さは 4 5 c m で、中央に深さ 3 . 5 c m のピットを有する。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕が出土している。石器はサヌカイト製の石鏃が出土している。

SK 6 5 (第 1 0 図・図版 7)

調査区北西隅部に位置し、平面形は不整楕円形である。長軸は 2 . 5 m で短軸は 2 . 0 m である。床面までの深さは約 2 4 c m で、数個のピットを有し最深のものは深さ 5 0 c m である。

出土遺物は、弥生式土器の甕、鉢が出土している。

SK 6 6 (第 1 0 図)

調査区北西部に位置し、平面形は南側がやや広い楕円形で長軸は 9 0 c m で短軸は 8 0 c m である。床面までの深さは最深で 5 6 c m で北側が深くなっている。

出土遺物は、土器は弥生式土器の甕が出土している。

SK 6 7 (第 1 0 図・図版 8)

調査区西部に位置し、平面形は不整形で規模は長軸が 2 . 2 m、短軸が 1 . 2 m である。床面までの深さは 2 4 c m で遺構内に数個のピットを有し、それぞれ深さは約 7 0 c m 前後である。遺物は出土していない。

SK 6 8 (第 1 1 図)

調査区北西部に位置し、平面形は楕円形で規模は長軸が 9 0 c m、短軸が 6 0 c m である。床面の平面形は隅丸長方形で、床面までの深さは 4 4 c m である。北側の壁面はややゆるやかで、南側は直に立ち上がり、床面は平坦である。

出土遺物は、弥生式土器の甕が出土している。

SK 6 9 (第 1 1 図)

調査区北西部に位置し、平面形は楕円形で規模は長軸が 0 . 9 m、短軸が 0 . 7 m である。床面までの深さは 2 6 c m である。壁面はゆるやかに立ち上がり床面は平坦である。

出土遺物は、弥生式土器の甕が出土している。

SK 7 0 (第 1 1 図)

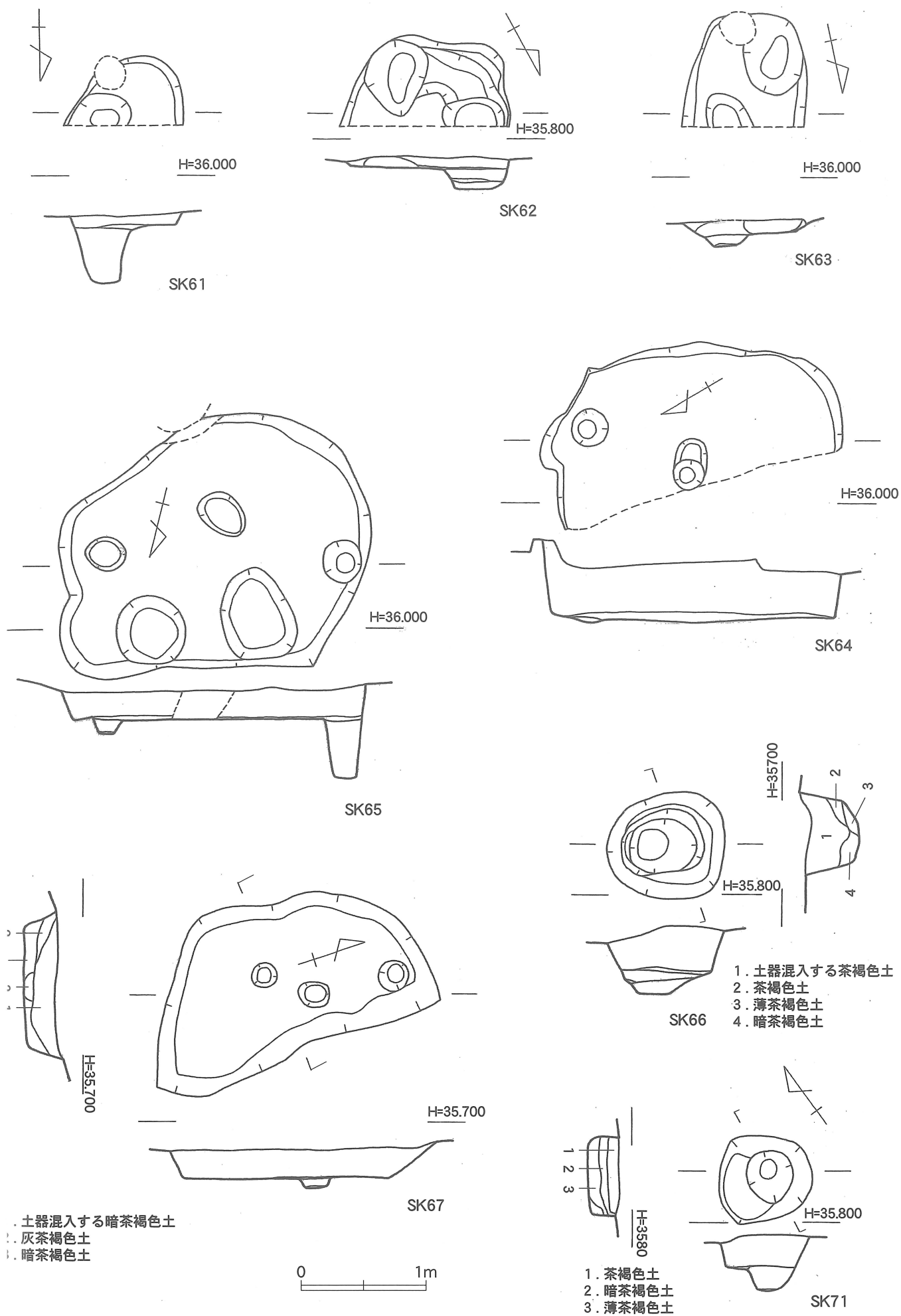
調査区北西部に位置し、平面形は隅丸長方形で規模は長軸が 1 . 2 m、短軸が 0 . 8 m である。床面までの深さは 4 0 c m で、壁面はゆるやかに立ち上がる。遺物は出土していない。

SK 7 1 (第 1 0 図)

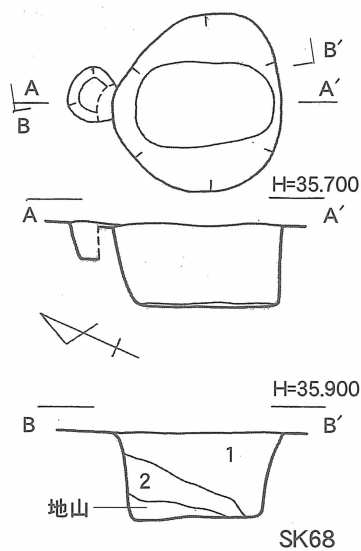
調査区北西部に位置し、平面形は円形に近い楕円形で西側が少し広い。規模は長軸が 7 5 c m、短軸が 6 5 c m である。床面までの深さは 2 5 c m で、東側は深くなっており、最深で 4 5 c m である。遺物は出土していない。

SK 7 2 (第 1 1 図・図版 8)

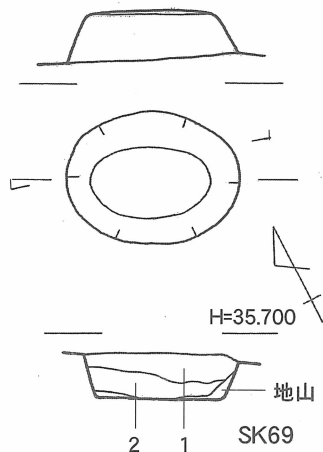
調査区西部に位置し、西側は調査区外に及ぶ。平面形は不明である。床面までの深さは 3 0 c m で、北側



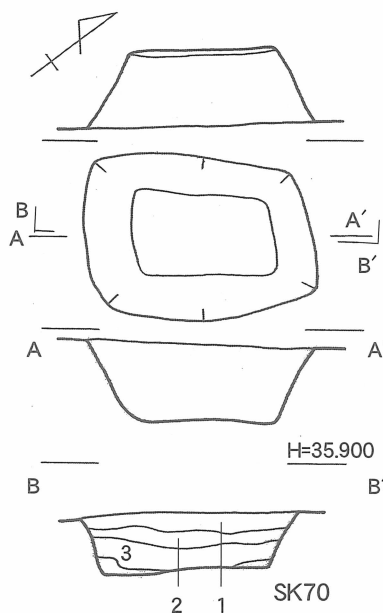
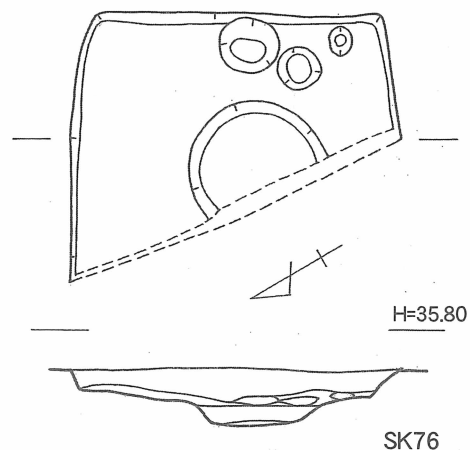
第10図 柳遺跡4次 土壌 (SK61~67・71) 実測図[1/40]



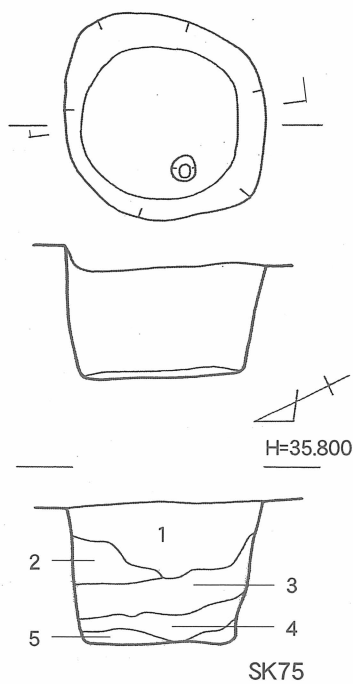
1. 土器混入する暗茶褐色土
2. 土器少量混入する薄茶褐色土



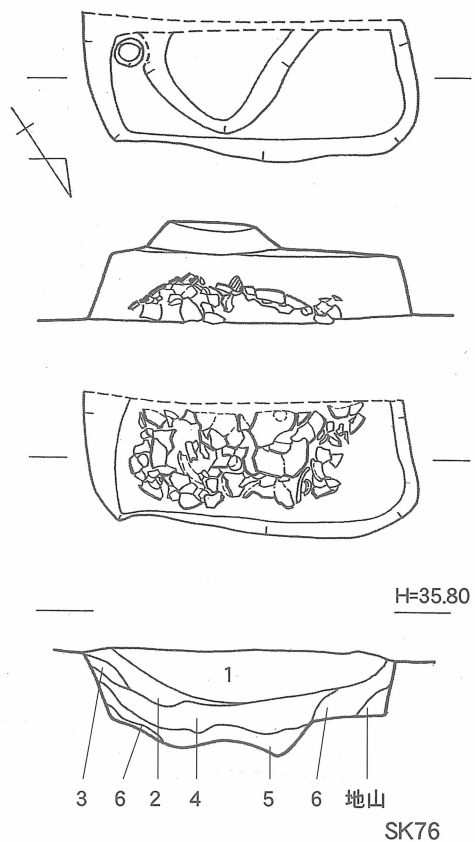
1. 土器混入する茶褐色土
2. 土器少量混入する茶褐色土



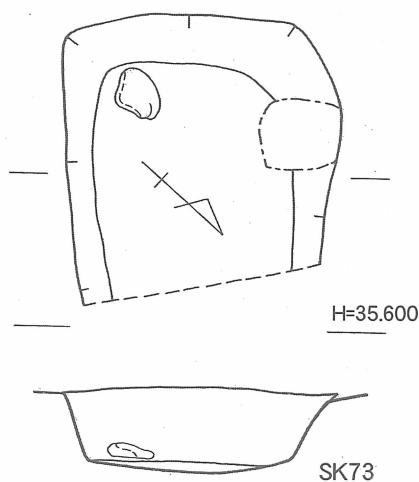
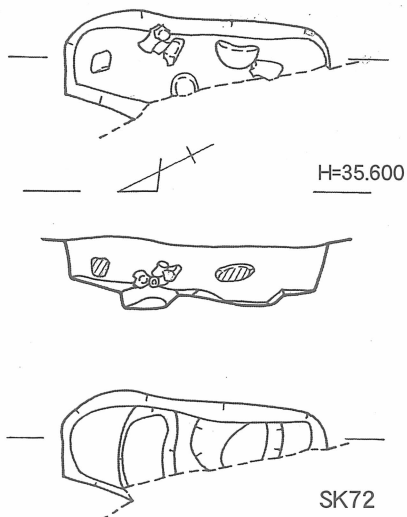
1. 土器混入する灰茶褐色土
2. 土器混入する薄茶褐色土
3. 土器混入する茶褐色土



1. 土器混入する茶褐色土
2. 地山混入する薄茶褐色土
3. 地山混入する暗茶褐色土
4. 暗茶褐色土
5. 地山ブロック少量混入する茶褐色土

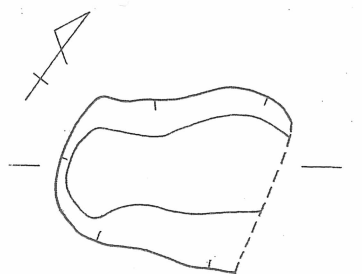


1. 土器含む茶褐色土
2. 炭化物と土器多量に含む暗茶褐色土
3. 茶褐色土
4. 土器少量含む暗茶褐色土
5. 薄茶褐色土
6. 地山ブロック混入する薄茶褐色土



0 1m

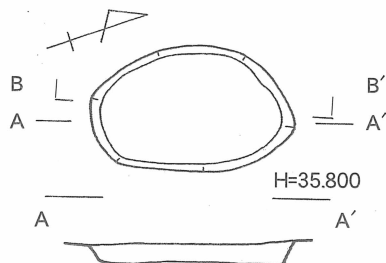
第11図 柳遺跡4次 土壌 (SK68~70・72~76) 実測図[1/40]



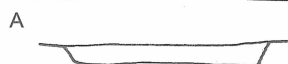
H=36.000



SK80



H=35.800

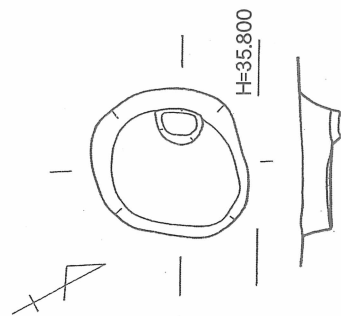


H=35.800



SK79

1. 暗茶褐色土



H=35.800

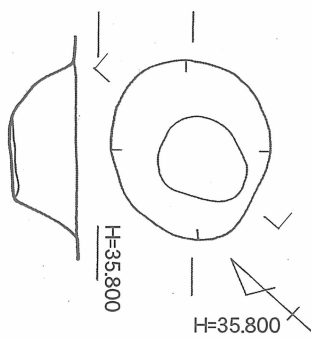


H=35.800



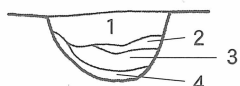
SK78

1. 暗茶褐色土
2. 薄茶褐色土



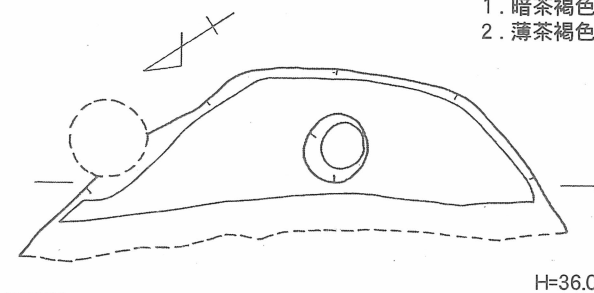
H=35.800

H=35.800



SK77

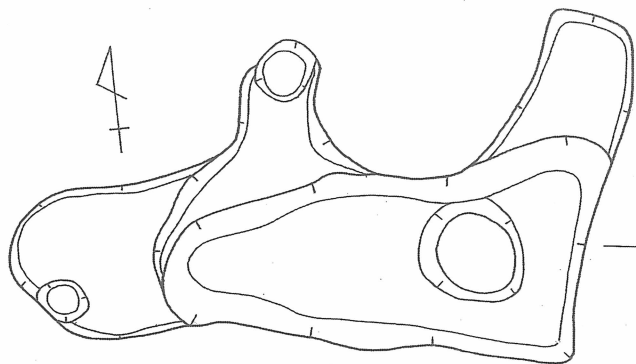
1. 土器混入する暗茶褐色土
2. 土器混入するやや濃い暗茶褐色土
3. 土器少量混入する薄茶褐色土
4. 薄茶褐色土



H=36.000



SK83

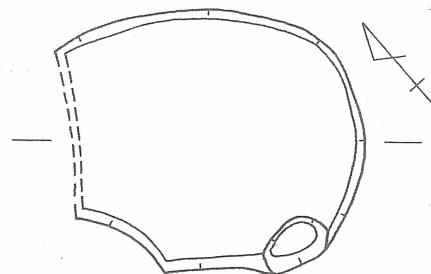


H=36.000



SK84

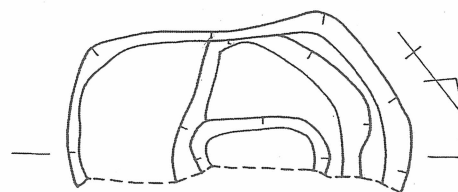
0 2m



H=35.800



SK82



H=35.800



SK81

第12図 柳遺跡4次 土壇 (SK77~79・81~84) 実測図[1/40]

にピットを有し、最深で深さ35cmである。

出土遺物は、弥生式土器の甕、器台、鉢が出土している。

SK73 (第11図)

調査区南西部に位置し、平面形は方形で一辺が1.4mである。床面までの深さは44cmで、壁面はゆるやかに立ち上がり床面は平坦である。SB19の屋内土壇の可能性もある。

出土遺物は、甕が出土している。

SK74 (第11図・図版8)

調査区北西部の南側に位置し、平面形は南側をSB23に切られているため不明である。確認できたところで東西が1.7mである。床面までの深さは35cmである。床面には方形に近い土壇があり、最深の深さは50cmである。

出土遺物は、弥生式土器の長頸壺、甕、器台、鉢が出土している。

SK75 (第11図・図版8)

調査区中央部に位置し、平面形は円形で規模は、径が1.1mである。床面までの深さは56cmで、床面は平坦で西側にピットを1個有する。壁面は直に立ち上がる。SD16に切られる。

SK76 (第11図)

調査区西側に位置し、平面形は北側をSB19に切られ、西側をSB21に切られているため不明である。床面までの深さは15cmで、最深で32cmである。遺物は出土していない。

SK77 (第12図)

調査区北西部に位置し、平面形は楕円形で規模は長軸が90cm、短軸が80cmである。床面までの深さは36cmである。床面は平坦で、面積が狭く壁面はゆるやかに立ち上がる。

出土遺物は、弥生式土器の甕が出土している。

SK78 (第12図)

調査区西部に位置し、平面形は円形で規模は径が80cmである。床面までの深さは14cmで、遺物は出土していない。

SK79 (第12図)

調査区西部に位置し、平面形は、楕円形で北側がやや尖る。規模は長軸が110cm、短軸が70cmで、床面までの深さは10cmと浅い。遺物は出土していない。

SK80 (第12図)

調査区西部に位置し、西側は調査区外に及ぶ。平面形は楕円形と思われる。規模は長軸については不明であるが、短軸は最大で48cmである。

出土遺物は、弥生式土器の甕が出土している。

SK81 (第12図)

調査区北側の中央部に位置し、北側は調査区外に及ぶ。平面形は不明である。床面までの深さは12cmと浅いが、確認できるところで中央に土壇があり、最深で深さが20cmである。

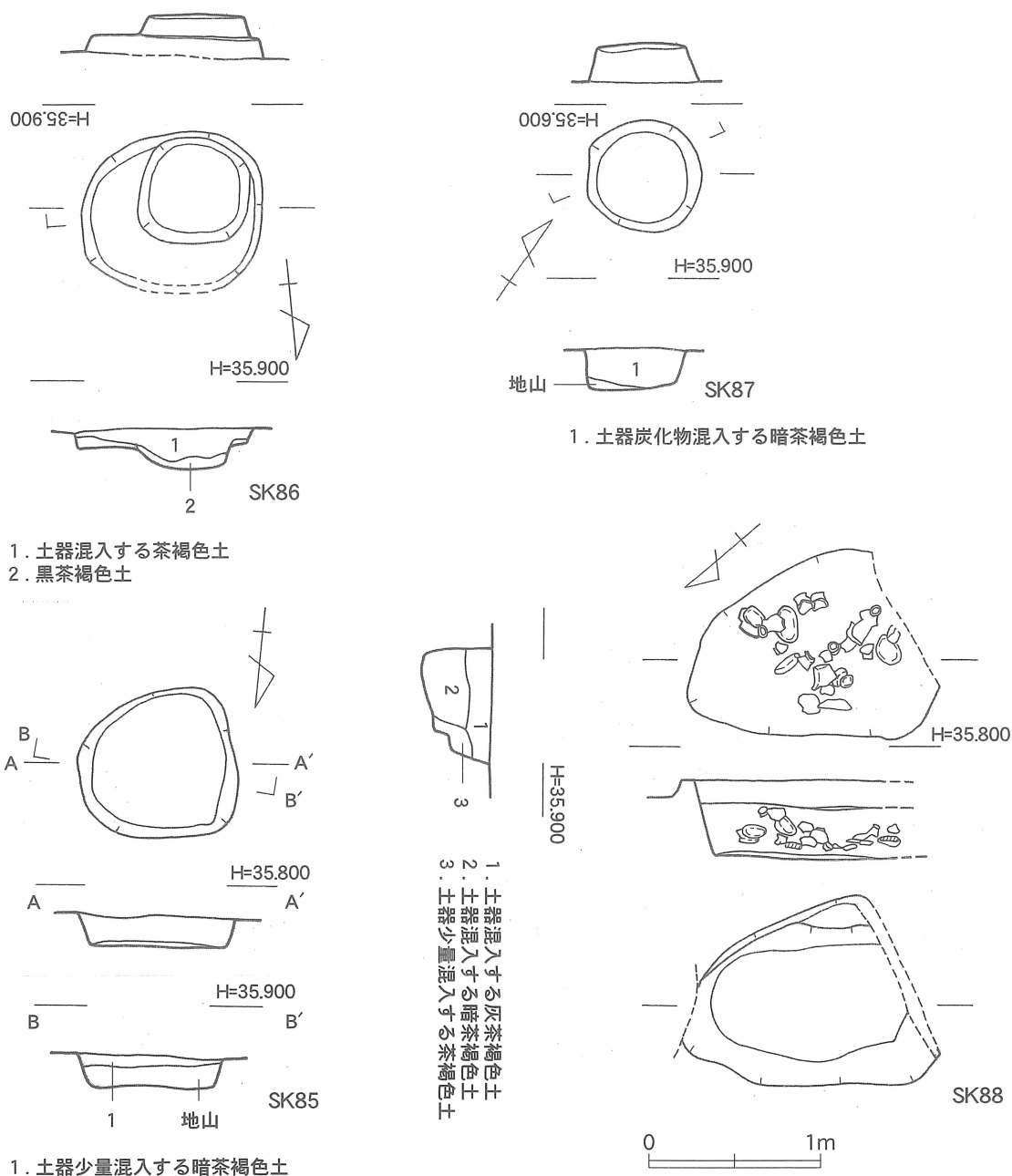
出土遺物は、土器は弥生式土器の壺、甕、蓋、高杯が出土している。石器はサヌカイト製のスクレイパーが出土している。

SK82 (第12図)

調査区の中央部に位置し、平面形は不整楕円形と思われる。規模は、長軸については北側がSB24に切られているため不明であるが、短軸は140cmである。床面までの深さは10cmと浅く、床面は平坦である。遺物は出土していない。

SK83 (第12図)

調査区北西部に位置し、平面形は西側をSB15に切られているため不明である。床面までの深さは5cmと浅く、遺構内にピットを有する。遺物は出土していない。



第13図 柳遺跡4次 土坑（SK85～88）実測図[1/40]

SK84（第12図）

調査区西部に位置し、平面形は不整形である。東側をSB25に切られ、南側をSB20に切られる。床面までの深さは15cmである。

出土遺物は、砥石が出土している。

SK85（第13図）

調査区南側の中央部に位置し、平面形は不整形円で規模は長軸が95cmで短軸が90cmである。床面までの深さは18cmである。遺物は出土していない。

SK86（第13図）

調査区南側の中央部に位置し、平面形は楕円形で規模は長軸が103cmで短軸が95cmである。南西の隅に土坑を有し、深さは10cmと浅い。遺物は出土していない。

SK87（第13図）

調査区北側の壁面部に位置し、平面形は円形で、径は65cmである。床面までの深さは20cmであり、床面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は出土していない。

SK88 (第13図・図版9)

調査区南東部に位置し、南側は調査区外に及ぶため平面形は楕円形と思われるが不明である。幅は105cmで、床面までの深さは40cmで床面は平坦である。壁面の立ち上がりは直に近い。北側をSB33に切られる。

出土遺物は、土器は弥生式土器の壺、甕、鉢、高杯、器台が出土している。石器はサヌカイト製のスクレイパーが出土している。

溝 (SD)

SD16 (第14図・図版9)

調査区中央に位置し、北側から南側に流れる。幅は90cmで深さは20cmと残りが悪い。断面形は残りが悪くはっきりしない。埋土は1層目が土器が混入する灰茶褐色土、2層目が薄茶灰色土である。

出土遺物は、器種が不明であるが土師器の細片と須恵器の杯蓋の細片が出土している。

SD17 (第14図・図版9)

調査区東側に位置し、北側から南側に流れる。幅は3.7mで深さは約85cmである。断面は逆台形で西側は段になっており、立ち上がりはやや緩やかで床面は平坦である。埋土は、1層目が土器多く混入する暗茶褐色土で、2層目は黄色土ブロック(地山)混入する薄茶褐色土、3層目は土器混入する暗茶褐色土である。

出土遺物は、土器では弥生式土器の壺、甕、脚付甕、鉢、高杯、脚付鉢、甑、器台、筒型器台、支脚、手捏土器が出土している。石器では黒曜石製の石鏃、片刃石斧、くぼみ石、砥石、石包丁が出土している。

(3) まとめ

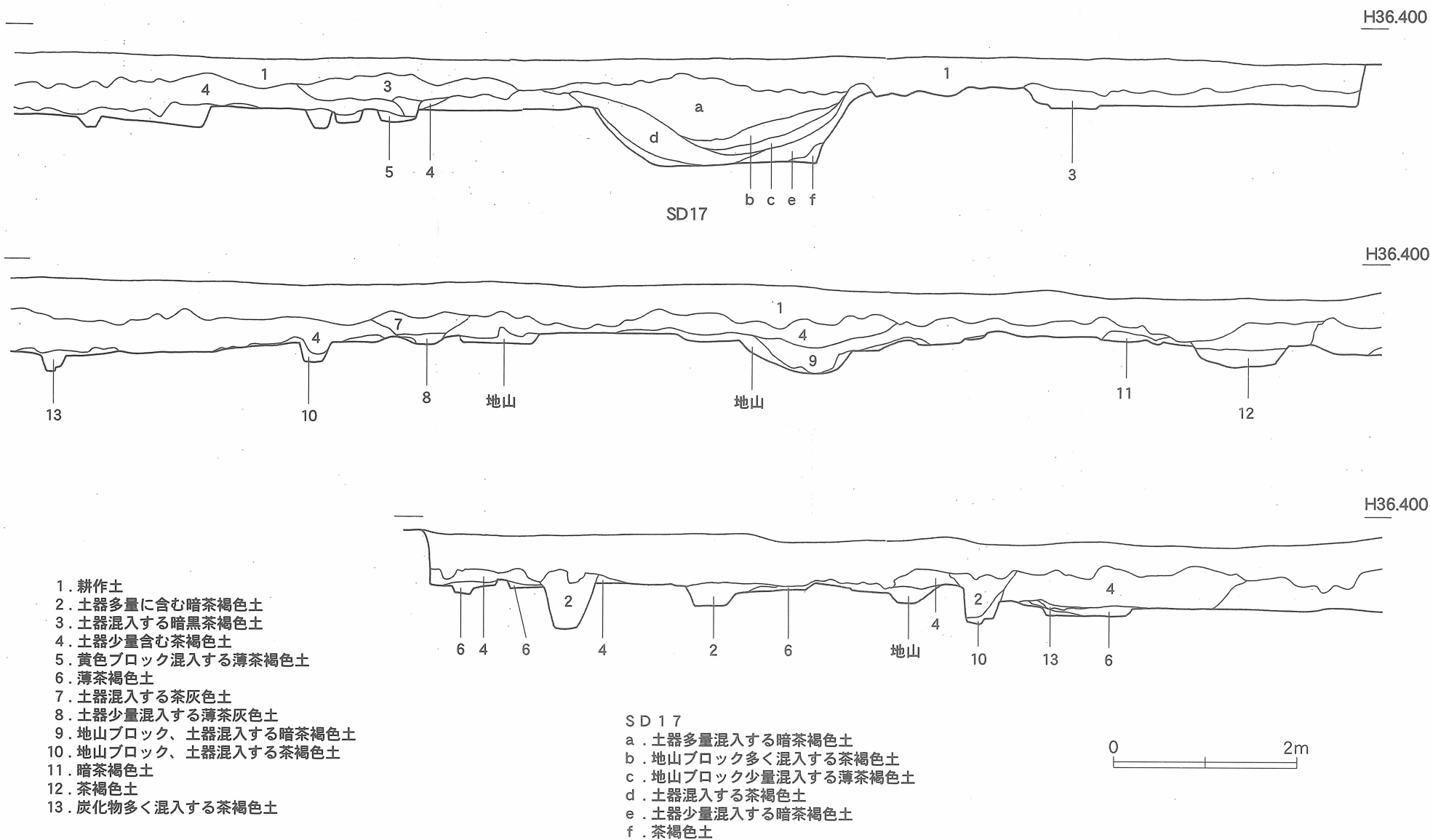
今回発掘調査を行った柳遺跡7地点が所在する区域は、納楚遺跡群(弥生時代から歴史時代)の中にあり、国道442号から北側はすでに平成17年度から道路開発事業に伴い発掘調査が進められてきており、弥生時代を中心とした集落や墳墓が発見されている。また、本遺跡の東側は前述したように平成17年度から平成19年度にかけて6遺跡の発掘調査が実施されており、弥生時代中期初めから古墳時代後期にかけての遺構が見つかっており、今回の発掘調査によって弥生時代中期から後期を中心とする集落の広がりが西側に延びていることが確認された。

本遺跡の遺構配置状況を見ると、東西に長い調査区域の中で遺構の密度が中心部から西側に集中しており、東側は比較的密度が低く弥生時代中期初めの竪穴住居と土壇、後期の大きな溝が見つかる程度である。西側の竪穴住居は、弥生時代中期から後期にかけてのもので切り合って検出された。

また、遺物については大量の弥生式土器が出土しており、時期差もあるが器種は壺、甕、蓋、鉢、高杯、器台、支脚等であった。壺は後期の複合口縁のものが多く出土した。また、甕は中期のものは少なく後期のものが多かった。数点ではあるが脚付きの甕も出土している。また、蓋は取手部分が平らなものと上げ底になっているものが出土している。鉢は大小あり、高杯は脚部が長いものと短いものがあつた。器台は2種類で、上下径が同じ鼓型のものと上部が開いた筒状のものがあつた。支脚はSD17を中心として多く出土している。

石器は、石鏃、スクレイパー、石匙、石斧、石包丁、くぼみ石等が出土している。また、その他竪穴住居から縄文時代後期の石器である十字型石器が出土している。十字型石器は八女市ではこれまでに出土例がない。土製品としては投弾、土玉、手捏土器やガラス玉等が出土しているほか赤色顔料も見られている。

本遺跡東側に位置するSB33を弥生時代中期初頭の時期として、同時期と思われる竪穴住居は柳遺跡1地点でも発見されており、同集落であった可能性も考えられる。その他は中期中頃から後期にかけての竪穴住居が17軒見つかる他は、奈良時代の竪穴住居と思われるカマドを付設した竪穴住居SB21が調査区西側で見つかる。カマドは竪穴住居の東南に設置されており、出土遺物は須恵器の杯蓋と甕の口縁部が出土している。



第14図 柳遺跡4次 北側壁土層実測図[1/60]

土壙は27基見つかり、方形に近く深めのSK75等は貯蔵穴と考えられる。また土器が多く出土したSK74、SK88はゴミ捨てのための穴と思われる。

溝は2条見つかり、調査区東側で見つかったSD17は幅が4m近くもあり、集落を区画する為のものであったかもしれない。SD17の出土遺物は弥生時代後期から終末にかけての土器が大量に出土している。また、SD16は残りが悪く出土遺物も数点ではあるが奈良時代のものと思われ、SB21と同時期である可能性も考えられる。

2 船底遺跡（2次調査）

（1）調査の概要

船底遺跡（2次調査）は、八女市納楚字船底に所在する遺跡で柳遺跡（4次調査）7地点の西側に位置する。北西50mのところには、平成20年度に発掘調査が実施された船底遺跡（1次調査）がある。本遺跡の標高は35.6m前後で、西側30m周辺は標高が約1mほど低くなっている。今回の調査区域は製茶工場駐車場の一部と買収以前は宅地であった部分である。重機で掘り下げを行ったところ、調査区域北側がかなり掘削されており南側と比較すると1mほど低くなっていた。近くに住んでおられる方から話を聞いたところ、以前は水田であったとのことで、発掘調査で遺構面まで掘り下げを行うと耕作土と床土が確認され、かなりの盛土がなされていることがわかった。

（2）遺構と遺物

今回発見された遺構は、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居8軒、土壙3基、溝2条が発見された。

竪穴住居（SB）

SB01（第16図・図版12）

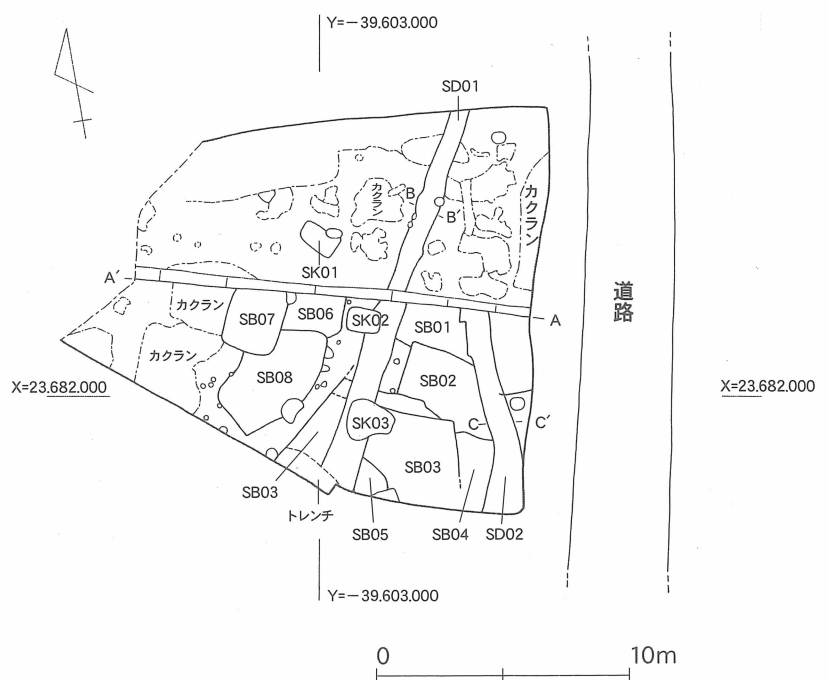
調査区東側中央部に位置し、東側は調査区外に及ぶ。SB02、SD01、SD02に切られる。また北側は掘削されているため平面形については不明である。床面までの深さは約28cmである。

出土遺物（第20・22・23図、表1・2・3）

第20図1は弥生式土器の無頸壺の口縁部と思われる。2、3は甕の口縁部で中期のものと思われる。4は甕の底部である。第22図2は紡垂車である。最大径が4.8cmで厚さが0.8cmと比較的薄い。第23図3は径が0.3cmのガラス玉で色調は青緑である。

SB02（第16図・図版12）

調査区南東部に位置し、平面形は、



第15図 船底遺跡2次 遺構配置図[1/300]

東側をSD02に切られ、南側をSB03、SB04、SB09に切られているため不明である。床面までの深さは約16cm前後である。

出土遺物（第20図、表1）

第20図5は、土師器の小型壺の完形品である。口縁部は直行し底部は丸底である。時期は3世紀後半代と思われる。6は、弥生式土器の甕の口縁部で中期のものと思われる。7～8は甕で、7は底部がやや尖りぎみである。2点とも外面はタタキで調整されており終末期と思われる。9～10は鉢で、9は中型、10は小型でともに丸底である。

SB03（第16図・図版12）

調査区南東部に位置し、南側は調査区外に及ぶ。平面形は方形か長方形と思われ、確認できているところで住居の1辺の長さは5mである。床面までの深さは約42cmである。

出土遺物（第20・22・25図、表1・2・4）

第20図11、12は弥生式土器の壺の底部と思われる。13、14は甕の口縁部で中期のものと思われる。15は甕の底部で復元底径が6.7cmで中期のものと思われる。第22図1は投弾で1/3を欠損している。第25図5はくぼみ石で、岩質は安山岩である。両面に窪みを施しており、一部欠損する。重さは880gである。

SB04（第16図・図版12）

調査区南東部に位置し、南側は調査区外に及ぶ。東側をSD02に、西側をSB03に切られ平面形については不明である。床面までの深さは約30cmである。遺物は出土していない。

SB05（第16図・図版12）

調査区南東部の南側壁面に位置する。一部のみしか検出できていないため、平面形は不明である。深さは約9cmとかなり浅い。

出土遺物（第20図、表1）

第20図16は土師器の小型の甕の完形品である。口縁部は「く字状口縁」で、底部は丸底である。調整方法は、外面が縦方向のハケ目で内面はヘラ削りである。外面には一部煤が付着しており、甕の出土状況は伏せた状態で見ついている。時期は古墳時代前半頃と考えられる。

SB06（第16図・図版12）

調査区中央に位置する。住居の北側は掘削されており、西側はSB07に、南側はSB08に切られているため平面形は不明である。床面までの深さは約6cm前後と浅い。遺物は出土していない。

SB07（第16図・図版12）

調査区南西部に位置する。北側は掘削されているが、平面形は長方形と思われる。確認できているところで1辺の規模は2mである。床面までの深さは5cmと浅い。遺物は出土していない。

SB08（第16図・図版12）

調査区南側に位置する。北側の1部をSB07に切られるが、平面形は長方形と思われ、長軸約4m、短軸やく3mで床面までの深さは3cmと浅い。住居中央に浅く掘りくぼめた炉が確認されたが柱穴は確認できなかった。遺物は出土していない。

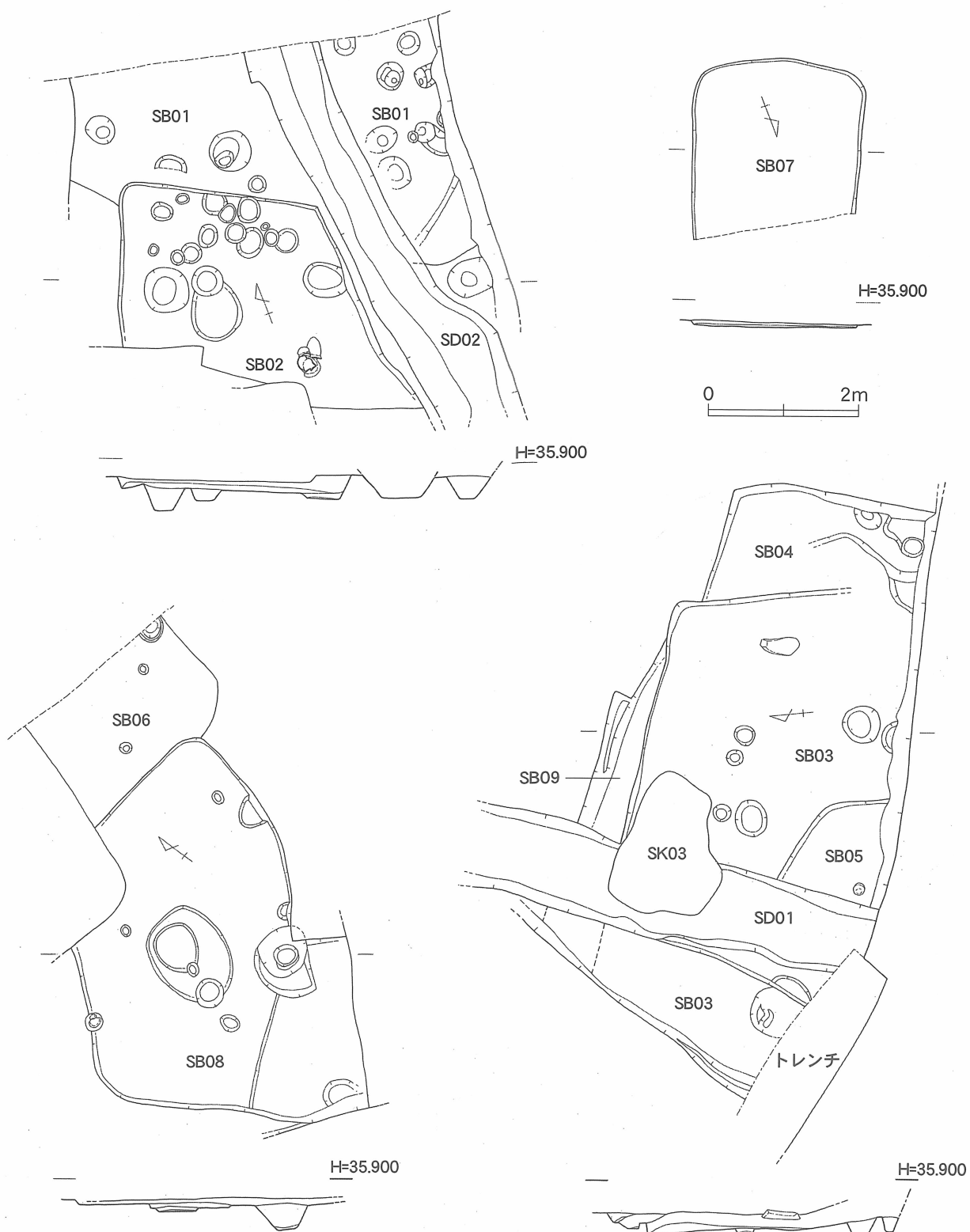
SB09（第16図・図版12）

調査区南東部に位置する。遺構の大半をSB03に切られているため平面形は不明である。床面までの深さは38cmである。遺物は出土していない。

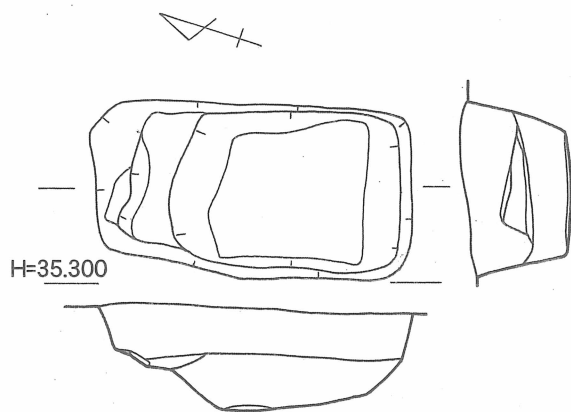
土壇（SK）

SK01（第17図・図版13）

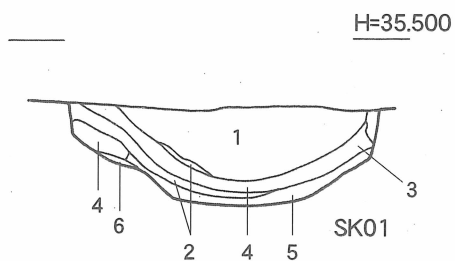
調査区北西部の掘削を受けた部分に位置する。平面形は長方形プランで、長軸は現存で約160cm、短軸90cmを測り北側がやや狭い。北側はテラス状になっており深さは35cmで、最深部の床面は52cmである。壁はやや直に立ち上がる。



第16図 船底遺跡2次 竪穴住居 (SB01~09) 実測図 [1/60]

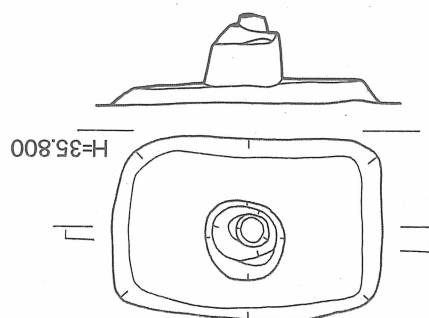


H=35.300



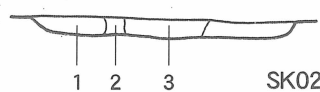
H=35.500

1. 炭化物少量混入する茶褐色土
2. 砂質土、混入する、茶褐色土
3. 地山ブロック混入する、暗黒茶褐色土
4. 薄茶褐色土
5. 地山ブロック多量に混入する、暗黒茶褐色土
6. 地山ブロック多量に混入する、茶褐色土

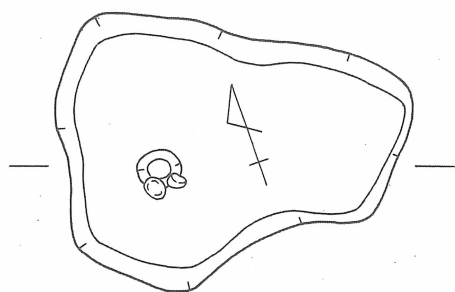


008'98=H

H=35.900



1. 灰色土、混入、土器混入する、暗茶褐色土
2. 土器混入する茶褐色土
3. 土器混入する薄茶褐色土



H=35.300



SK03

0 1m

第17図 船底遺跡2次 土壌 (SK01~03) 実測図[1/40]

出土遺物（第20図、表1）

第20図17、18は弥生式土器の壺である。17は口縁部から頸部にかけて残存しており、復元口径は16cmである。中期のものと思われる。18は小型で復元口径は11.2cmである。色調は、やや赤みを帯びており胎土に石英粒を多く含む。19は甕の口縁部で断面は三角形である。口縁部の下方に沈線を施している。

SK02（第17図・図版13）

調査区中央部に位置する。平面形は隅丸の長方形プランで、長軸は140cm、短軸90cmを測る。深さは約9cmで、壁はゆるやかに立ち上がる。遺構の中央に径42cm、深さ36cmのピットを有する。遺物は出土していない。

SK03（第17図・図版13）

調査区南東部に位置する。SB03とSD01のプランの中に入っており、遺構検出時には確認されなかった。不整形プランで、長軸は190cm、短軸は90cm～160cmである。深さは確認できたところで約40cmである。壁はやや直に立ち上がる。また、西側に径11cm、深さ10cmのピットを有する。出土遺物（第20図、表1）

第20図20は弥生式土器の壺の底部と思われる。復元底径は7.5cmである。底部から上面にかけて胴部が張ると思われる。21、23、24は甕の底部である。21は復元底径9.6cmである。調整方法は磨耗しているため不明であるが中期のものと思われる。22は甕の蓋のつまみと思われる。つまみ部分の径は4.4cmで外面に丹塗りの痕跡が残る。

溝（SD）

SD01（第18図・図版14）

調査区東側に位置し、北東から南西に流れる。溝の床面の標高は35m前後である。調査区中央から北側は掘削されているため残存高は、約20cm前後と残りが悪い。幅は南側のよく残っている部分で約95cm前後、深さも同じくよく残っている部分で約70cmである。溝の断面形状はU字形を呈する。

埋土は1層目が土器を多く混入する暗茶褐色土で2層目が薄茶褐色土、3層目が土器を混入する暗茶褐色土、4層目が地山ブロックを多量に混入する茶褐色土である。

出土遺物（第21～23・25図、表1～4）

第21図25は弥生式土器の甕の口縁部で、中期のものと思われる。復元口径は22cmである。26は甕の底部で、復元底径は7.3cmである。外面は縦方向のハケ目で調整されている。27は甕の口縁部である。「く字状口縁」で後期のものと思われる。第22図3は、手捏土器の鉢で土師質に近い。復元口径は3.0cmである。第23図2は、ガラス玉で最大径が0.4cmで、色調は青緑である。第25図6はくばみ石で、岩質は安山岩で上面中央部に窪みを有し、重さは1.06kgである。

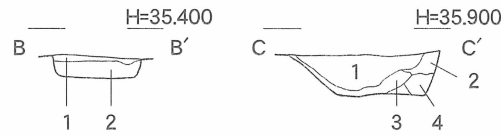
SD02（第18図・図版14）

調査区東側に位置し北西から南東に流れる。調査区中央から北側は掘削のため遺構の確認はできなかった。標高は35.42mである。遺構の断面は逆台形で緩やかに立ち上がる。

埋土は1層目が少量の土器を含み砂質土が混入する灰色土で2層目はやや暗い灰色土であった。幅は約100cm前後、深さは35cmである。

出土遺物（第21・23図、表1・3）

第21図28は弥生式土器の壺の胴部である。胴部の最も張った部分に刻目突帯を施す。口縁部及び底部を欠損するため時期については判断できかねるが、後期のものと思われる。29は、壺の底部である。復元底径が6.5cmで底の部分がやや丸みを帯びている。後期のものと思われる。30は須恵器の高台付杯身である。復元底径は、11cmである。8世紀代のものと思われる。第23図3は、ガラス玉で径は0.4cmである。色調は青緑である。

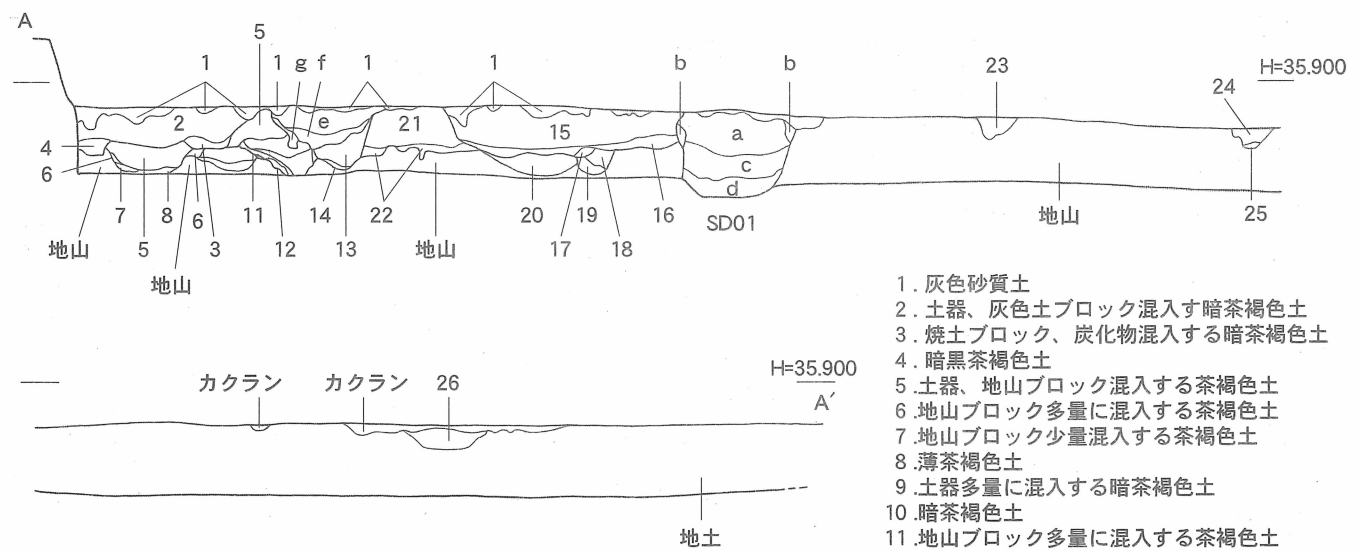


SD01 SD02

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 土器混入する暗茶褐色土 | 1. 土器少量砂質を混入する灰色土 |
| 2. 地山ブロック多量に混入する茶褐色土 | 2. 灰色土 |
| | 3. やや暗い灰色土 |
| | 4. 茶褐色土少量混入する灰色土 |



第18図 船底遺跡2次 溝 (SD01・02) 土層実測図[1/60]



SD01

- a. 土器多く混入する暗茶褐色土
- b. 薄茶褐色土
- c. 土器混入する暗茶褐色土
- d. 地山ブロック多量に混入する茶褐色土

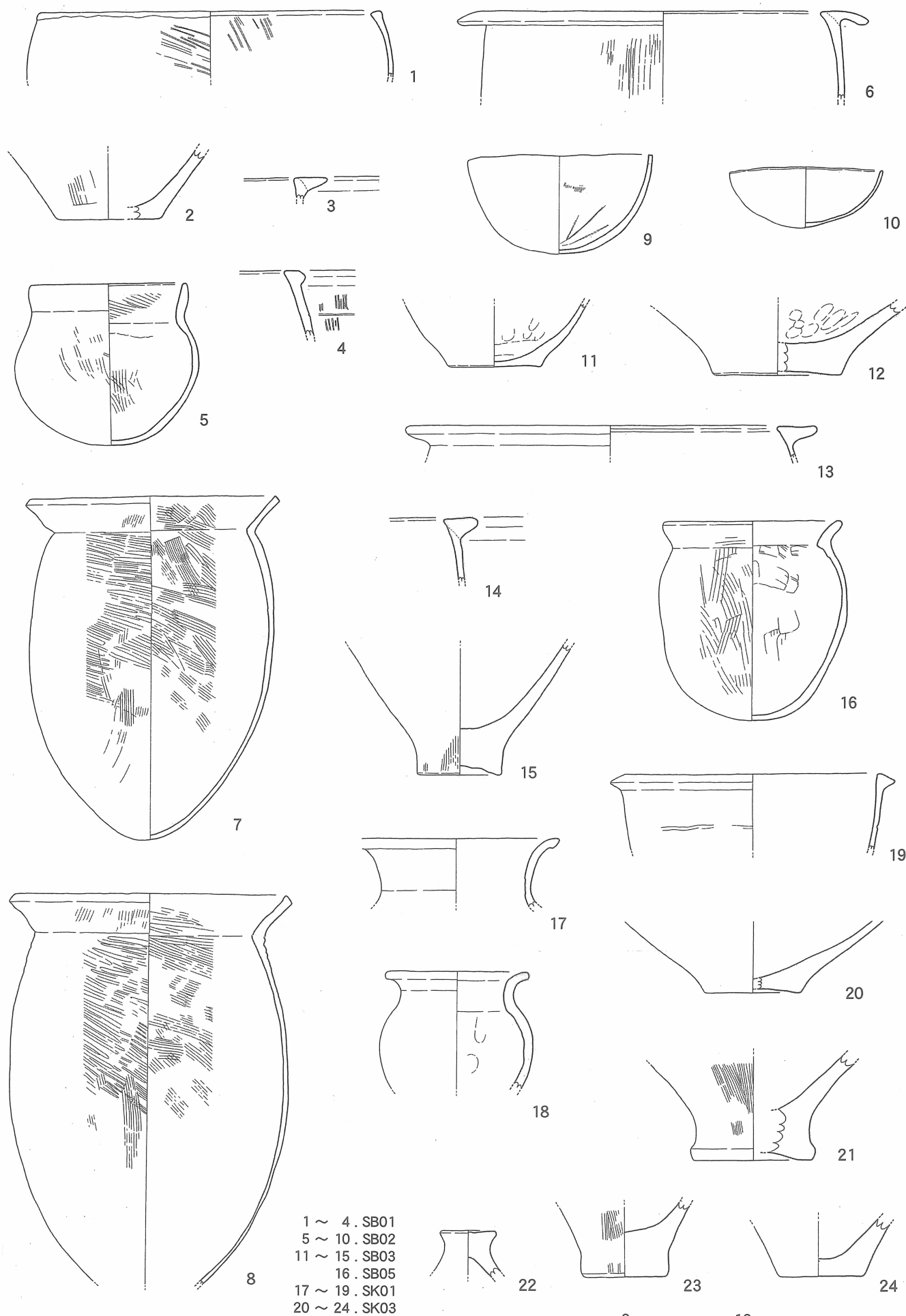
SD02

- e. 土器混入する灰色土
- f. " やや暗い灰色土
- g. やや暗い灰色土

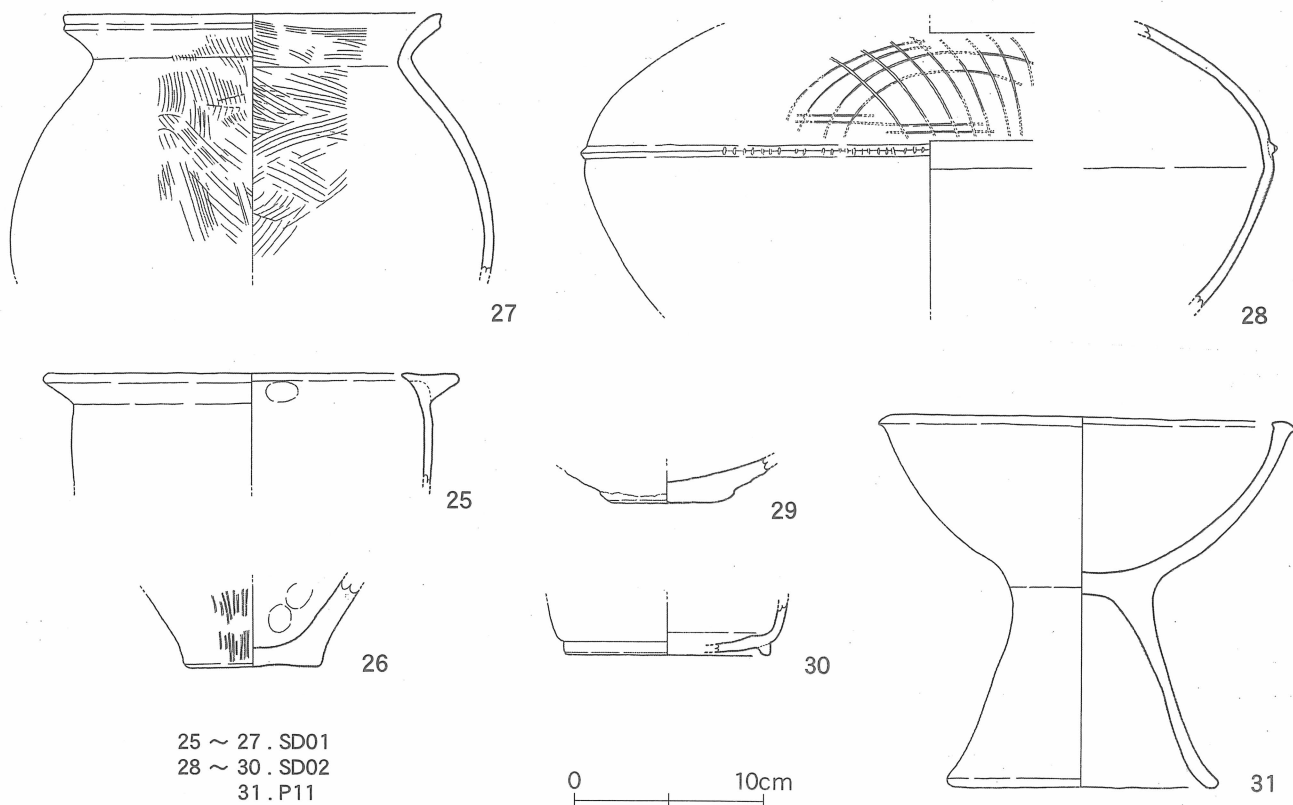
- 1. 灰色砂質土
- 2. 土器、灰色土ブロック混入する暗茶褐色土
- 3. 焼土ブロック、炭化物混入する暗茶褐色土
- 4. 暗黒茶褐色土
- 5. 土器、地山ブロック混入する茶褐色土
- 6. 地山ブロック多量に混入する茶褐色土
- 7. 地山ブロック少量混入する茶褐色土
- 8. 薄茶褐色土
- 9. 土器多量に混入する暗茶褐色土
- 10. 暗茶褐色土
- 11. 地山ブロック多量に混入する茶褐色土
- 12. 薄茶褐色土
- 13. 土器混入する暗茶褐色土
- 14. 地山ブロック多量に混入する茶褐色土
- 15. 土器、灰色土ブロック混入するやや明るい暗茶褐色土
- 16. やや暗い暗茶褐色土
- 17. 地山ブロック少量混入する茶褐色土
- 18. 土器少量混入する暗茶褐色土
- 19. 地山ブロック多く混入する薄茶褐色土
- 20. 暗茶褐色土
- 21. 土器、灰色土ブロック混入する暗茶褐色土
- 22. 地山ブロック少量混入する茶褐色土
- 23. 灰色土ブロック、土器混入する茶褐色土
- 24. 焼土混入する暗茶褐色土
- 25. 地山ブロック混入する暗茶褐色土
- 26. 土器混入する灰茶褐色土



第19図 船底遺跡2次 中央南側壁土層実測図[1/60]



第20図 船底遺跡2次 竪穴住居 (SB01~03・05)、
 土壇 (SK01・03) 出土土器実測図[1/4]



第21図 船底遺跡2次 溝 (SD01・02)、ピット (P11)
出土土器実測図[1/4]

(3) まとめ

船底遺跡(2次調査)は、柳遺跡(4次調査)7地点に隣接し、国道442号から北側に通じる市道平田牟田線をはさんで西側に位置する。本遺跡も柳遺跡同様に納楚遺跡群の中に所在する。今回の発掘調査により、柳遺跡1次~4次調査で発見された弥生時代中期から後期の集落が本遺跡の所在する西側にも広がっていることが確認された。

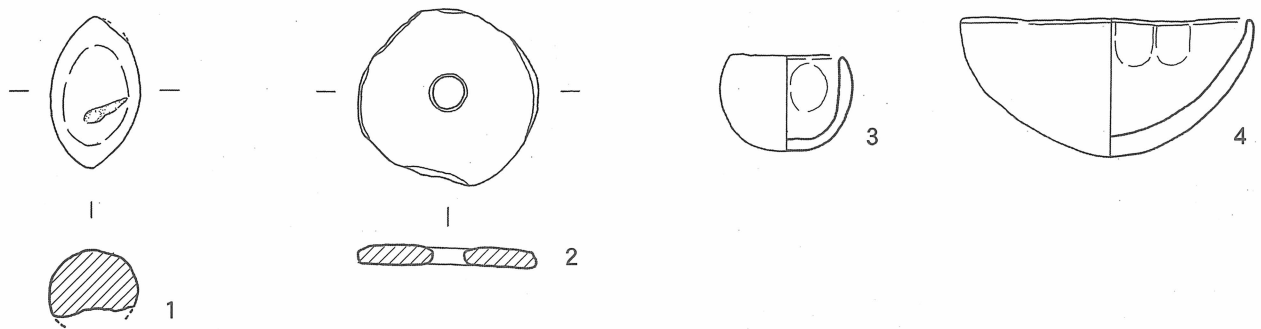
竪穴住居は9軒発見されているが、調査区の東側で切り合った状態でみつかっており時期は弥生時代後期から終末期あるいは古墳時代初頭までのものと考えられる。調査区北側についてはかなり削平されており竪穴住居の確認は出来ていない。

土壌については3基みつかっており弥生時代中期のものと思われる。特にSK01は北側の削平された区域から発見されており本来はかなりの深さであったと思われる。

溝については2条検出されており、SD01は、北側から南側に流れている。弥生時代後期のものと思われる。断面が逆台形で深さもあり区画するための溝であったかもしれない。SD02は、出土した土器などから8世紀代のものと考えられ、柳遺跡(4次調査)7地点のSB21やSD16と时期的に近いと思われる。

平成20年度に発掘調査が実施された船底遺跡(1次調査)では弥生時代の旧河川跡1条、溝3条、井戸1基、古墳時代から平安時代にかけての溝6条、井戸1基、土壌4基が発見されている。本遺跡の北西方向にはバイパス建設に伴う発掘調査が実施されており、その結果弥生時代を中心とする数々の遺跡の存在が確認されている。それらの遺跡が位置する区域は標高が本遺跡より1.7mほど低い場所に形成されている。

今回の発掘調査により、船底遺跡周辺には中期から後期、古墳時代初頭にかけての集落が形成されていたことがわかった。調査区の北側は残念ながらかなり削平されており、遺構は残りのよいものがわずしか確認できなかったが、柳遺跡の集落が本遺跡まで広がっていたことが確認できた。



土製品

1. SB03

2. SB01

3. SD01

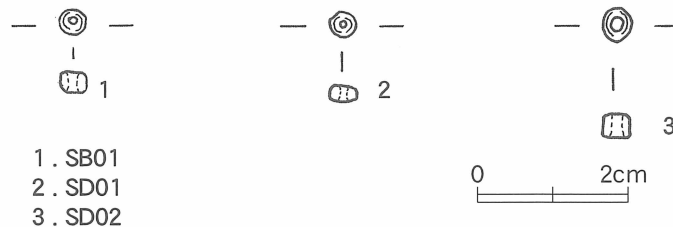
4. 表採

石製品

1 ~ 2. P01

0 5cm

第22図 船底遺跡2次 竪穴住居 (SB01・03)、溝 (SD01)、
ピット (P01)、表採 出土土製品・石製品実測図[1/2]



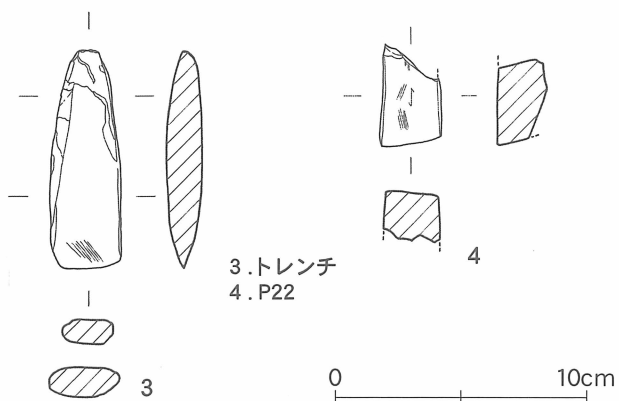
1. SB01

2. SD01

3. SD02

0 2cm

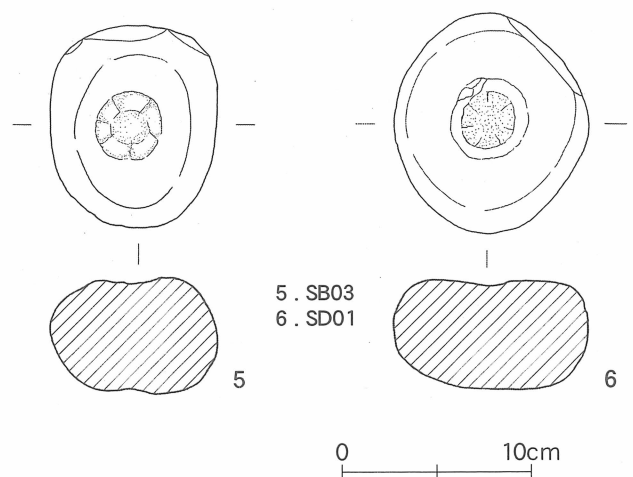
第23図 船底遺跡2次 竪穴住居 (SB01)、
溝 (SD01・02) 出土玉類実測図[1/
1]



3. トレンチ
4. P22

0 10cm

第24図 船底遺跡2次 ピット (P22)、
トレンチ 出土石製品実測図[1/3]



5. SB03

6. SD01

0 10cm

第25図 船底遺跡2次 竪穴住居 (SB03)、
溝 (SD01) 出土石製品実測図[1/4]

挿図 番号	遺物 番号	実測 番号	出土 遺構	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
											外 面	内 面	
第20図	1	126	SB01	壺 (口縁部破片)	26.6			石英及び片岩粒を含む	淡黄灰色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目後ナデ	黒斑有り
"	2	119	SB01	甕 (口縁部破片)				片岩粒が多く含む	淡黄色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
"	3	120	SB01	甕 (口縁部破片)				石英及び片岩粒が多く含む	灰褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目、沈線	ナデ	
"	4	121	SB01	甕 (底部破片)		復原 8.2		石英及び片岩粒が多く含む 角閃石が少量含む	黄茶褐色/暗茶褐色	やや良好	ハケ目後ナデ	ナデ	
"	5	1	SB02	壺 (ほぼ完形口縁部 一部欠損)	12.2		12.5	片岩、石英、赤色粒子を多く含む	淡黄茶色	良好	不明、ハケ目後ナデ、工具に よるナデ	ハケ目	黒斑有り
"	6	19	SB02	甕 (口縁部片)	復原 3.2			片岩、石英、赤色粒子を多く含む	淡黄色/淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)、ハケ目	不明 (摩耗)	
"	7	3	SB02	甕 (4/5強)	19.5		26.6	片岩、石英、角閃石、赤色粒子を 多く含む	黄茶色/淡黄茶色	やや良好	ハケ目、叩き後一部ハケ目、 ハケ目 (摩耗)	ハケ目	
"	8	2	SB02	甕 (上部片)	22			片岩、石英、角閃石、赤色粒子を 多く含む	淡黄茶色	やや良好	ハケ目、叩き後不明 (摩耗)、 一部ハケ目	ハケ目	黒斑有り
"	9	6	SB02	鉢 (4/5強)	14.3		7.5	片岩、石英粒子を多く含む	淡黄茶色/淡黄灰色	やや良好	不明 (摩耗)	ハケ目後工具によるナデ	
"	10	7	SB02	鉢 (4/5強)	12		4.6	片岩、石英、赤色粒子を多く含む	淡黄茶色/淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
"	11	12	SB03	壺 (底部片)		7.2		片岩、石英、赤色粒子を多く含む 精選されている	明黄褐色/明褐色	やや良好	不明 (摩耗)	指押え	黒斑有り
"	12	13	SB03	壺 (底部片)		復原 1.0		片岩、石英、赤色粒子を多く含む	淡黄茶褐色/暗灰茶色	やや良好	ヘラナデ、不明 (摩耗)	指押え	
"	13	15	SB03	甕 (口縁部片)	復原 3.2			片岩、石英、角閃石、赤色粒子を 多く含む	淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
"	14	16	SB03	甕 (口縁部破片)				石英粒子、及び片岩細粒子を 多く含む	淡黄茶色/黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
"	15	14	SB03	甕 (底部片)		復原 6.7		片岩、石英粒子を多く含む	淡黄褐色/淡黄茶色	やや良好	不明 (摩耗)、ハケ目	不明 (摩耗)	
"	16	5	SB05	甕 (完形品)	13.8		15.5	片岩、石英粒子を多く含む	淡黄茶色/淡茶色	良好	ヨコハケ目後ナデ、ハケ目	不明、工具による削り状調整	黒斑有り
"	17	10	SK01	壺 (口縁部片)	復原 1.6			片岩、石英粒子、雲母微粒子を 多く含む	淡黄褐色/淡灰褐色	やや良好	不明 (摩耗)	剥落している	
"	18	17	SK01	壺 (口縁部片)	復原 11.2			片岩、石英粒子を多く含む	茶褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)、指押え	
"	19	9	SK01	甕 (口縁部片)	復原 2.2			片岩、石英、赤色粒子を多く含む	淡黄色/淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)、沈線	不明 (摩耗)	
"	20	11	SK03	壺 (底部片)		復原 7.5		片岩、石英、赤色粒子を多く含む	淡黄茶褐色/暗茶褐色	やや良好	ヘラナデ	ヘラナデ	
"	21	115	SK03	甕 (底部片)		復原 9.6		石英及び片岩粒が多く含む 角閃石が少量含む	黄茶褐色/淡灰色	やや良好	ハケ目後ナデ、ナデ	不明 (摩耗)	
"	22	117	SK03	蓋 (つまみ部片)	つまみ 4.4			石英及び片岩粒が少し含む	丹塗/暗黒褐色	やや良好	ナデ	ナデ	外面丹塗
"	23	113	SK03	甕 (底部片)		6.7		石英及び片岩粒が多く含む	淡黄茶色/黄茶色	やや良好	ハケ目後ナデ (ほぼ摩耗)、 ナデ	ナデ	
"	24	111	SK03	甕 (底部片)		6.6		石英及び片岩粒が少量含む	明茶褐色/明黄褐色	やや良好	ナデ (摩耗)	ナデ (摩耗)	
第21図	25	20	SD01	甕 (口縁部片)	復原 2.0			片岩、石英、細粒子を多く含む	淡黄茶色/淡茶色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	
"	26	124	SD01	甕 (口縁部破片)	22			片岩粒が多く含む	暗黄褐色/暗褐色	やや良好	ヨコナデ	指押え痕後ナデ、ナデ	
"	27	123	SD01	甕 (底部破片)		7.3		細砂粒が少し含む	黄茶褐色/暗茶褐色	良好	ハケ目、ナデ	指押え後ナデ、ナデ	
"	28	8	SD02	壺 (胴部片)				片岩、石英粒子を多く含む	黄茶色/茶褐色	やや良好	格子目文状文様 (一部摩耗) ヨコナデ、刻目、不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	胴部最大径 37.8 cm
"	29	22	SD02	壺 (底部片)		復原 6.5		石英粒子、及び片岩赤色細 粒子を多く含む	淡黄色/淡黄色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
"	30	23	SD02	須恵器 杯 (1/7)		復原 1.1		片岩、石英粒子を多く含む	明灰色	良好	回転ナデ、回転ヘラ切り	回転ナデ	
"	31	4	P11	高杯 (2/3強)	22.2	14.3	19.5	片岩、石英、角閃石、赤色粒子を 多く含む	淡黄茶色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	

表1 船底遺跡2次 SB・SK・SD・ピット 出土土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	実測 番号	出土 遺構	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	調 整		備 考
											外 面	内 面	
第22図	1	21	SB03	投弾(2/3)	長さ 4	最大径 2.4		赤色細粒子、片岩微粒子を多く含む、精選されている。	やや良好	やや良好			
"	2	116	SB01	紡錘車	最大径 4.8	厚さ 0.6		片岩粒が多く含む 雲母微粒子が少し含む	やや良好	やや良好			
"	3	125	SD01	手捏土器(1/2)	3.0			ほぼ精選されている	やや良好	やや良好	指押え後ナデ	ナデ	
"	4	122	表採	小鉢(完形品)	7.8			石英及び片岩粒が多く含む	やや良好	やや良好	摩耗の為調整不明	押圧痕、ナデ	

表2 船底遺跡2次 SB・SD・表採 出土土製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	実測 番号	出土 遺構	器種	色調	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第22図	1	104	SB01	ガラス玉	青緑	0.3	0.3	0.3		
"	2	105	SD01	ガラス玉	青緑	0.3	0.4	0.3		
"	3	103	SD02	ガラス玉	青緑	0.4	0.4	0.3		

表3 船底遺跡2次 SB・SD 出土玉類観察表

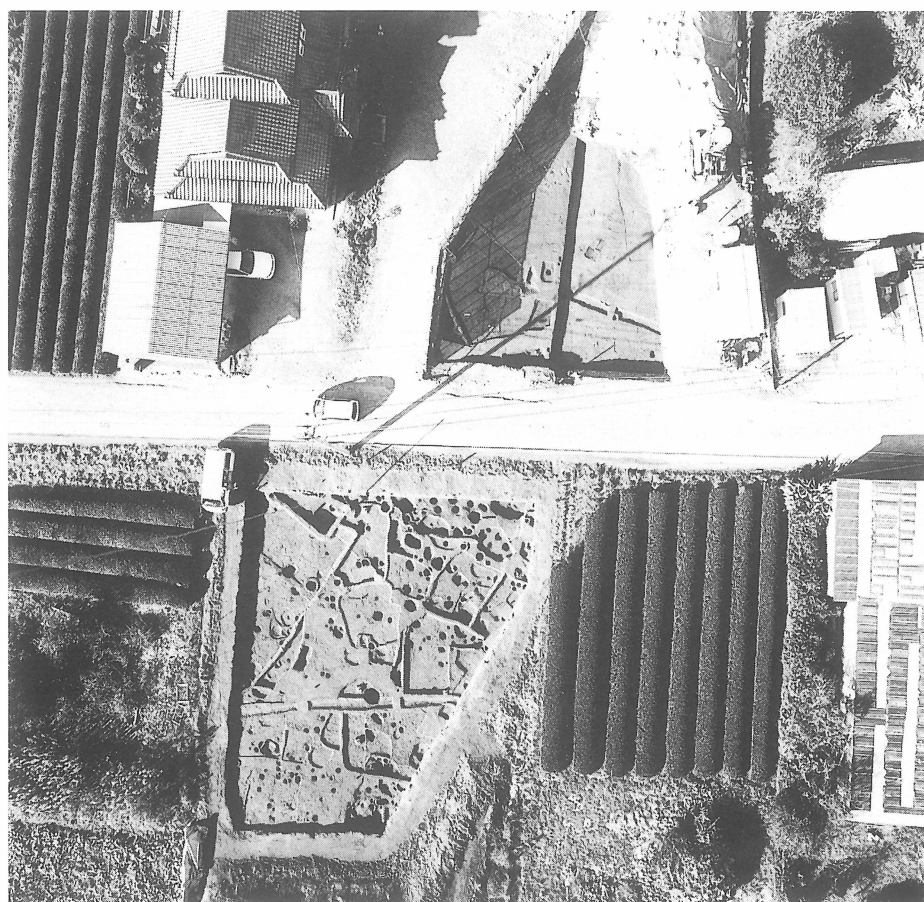
挿図 番号	遺物 番号	実測 番号	出土 遺構	器種	岩質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第22図	1	109	P01	石鏃	黒曜石	2.3	2.0	0.4	1.2	
"	2	108	P01	石鏃	サヌカイト	2.5	1.7	0.3	1.1	
第24図	3	110	トレンチ	小型石斧	不明	8.7	2.8	1.3	50	
"	4	106	P22	砥石	泥岩	4.1	2.5	1.9	30	
第25図	5	102	SB03	くぼみ石	安山岩	10.6	8.9	6.1	880	
"	6	101	SD01	くぼみ石	安山岩	11.6	10.4	5.7	1.06kg	

表4 船底遺跡2次 SB・SD・ピット・トレンチ 出土石製品観察表

版 図



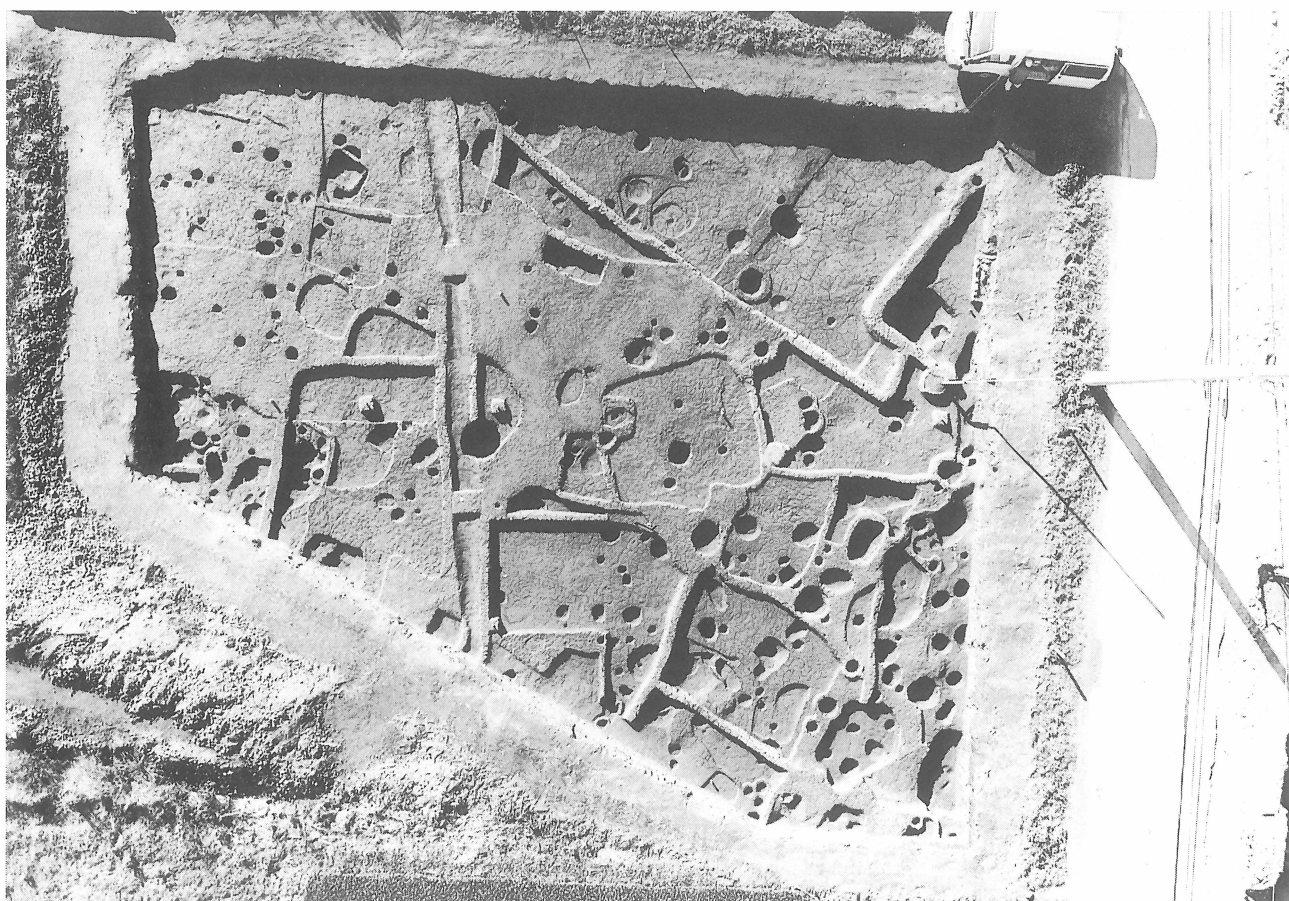
(1) 柳遺跡 4 次・船底遺跡 2 次 発掘調査前 航空写真



(2) 柳遺跡 4 次・船底遺跡 2 次 航空写真



(1) 柳遺跡 4 次 発掘前風景 (東から)



(2) 柳遺跡 4 次 航空写真



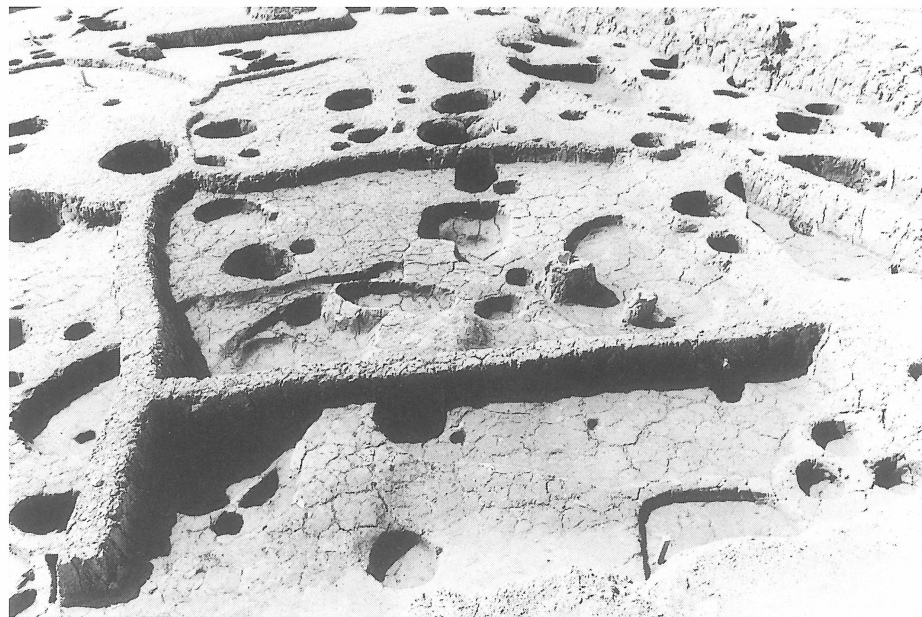
(1) 柳遺跡 4 次 東側全景 (西から)



(2) 柳遺跡 4 次 発掘調査風景



(1) 柳遺跡 4次 SB15



(3) 柳遺跡 4次 SB17



(2) 柳遺跡 4次 SB16



(4) 柳遺跡 4次 SB18・24



(1) 柳遺跡 4次 SB 19・22・23



(3) 柳遺跡 4次 SB 21



(2) 柳遺跡 4次 SB 20



(4) 柳遺跡 4次 SB 25



(1) 柳遺跡 4次 SB 26



(3) 柳遺跡 4次 SB 28



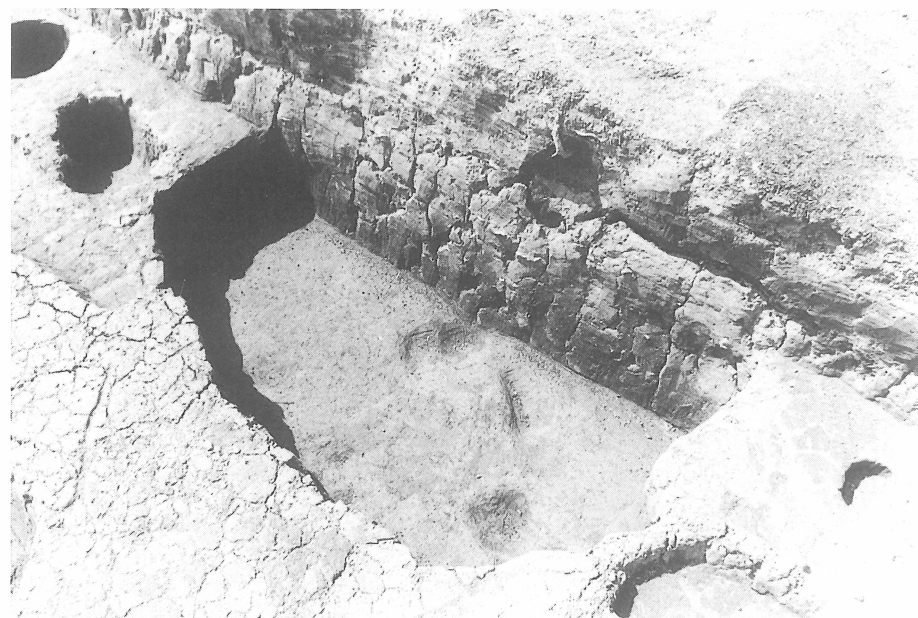
(2) 柳遺跡 4次 SB 27



(4) 柳遺跡 4次 SB 29



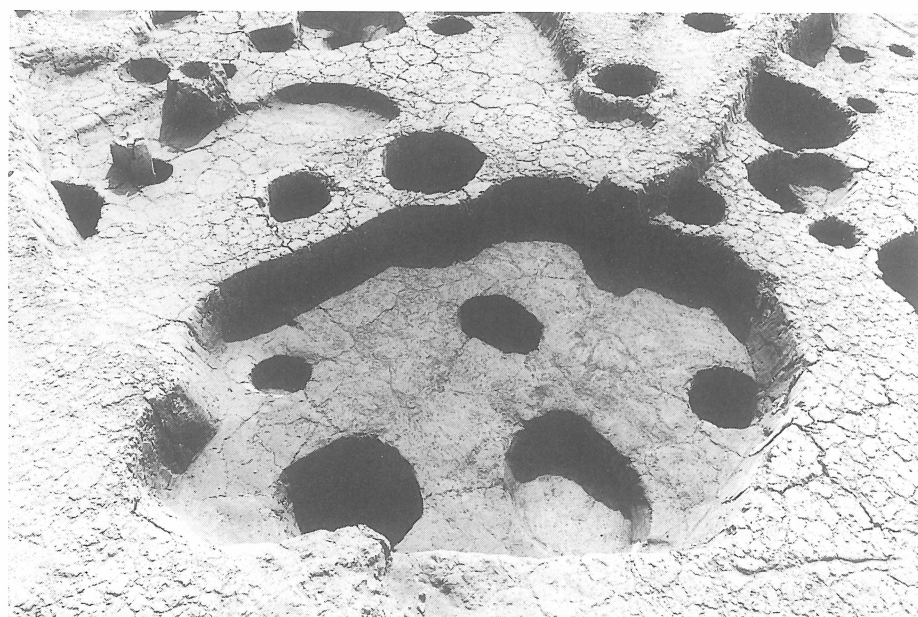
(1) 柳遺跡 4次 SB 3 2



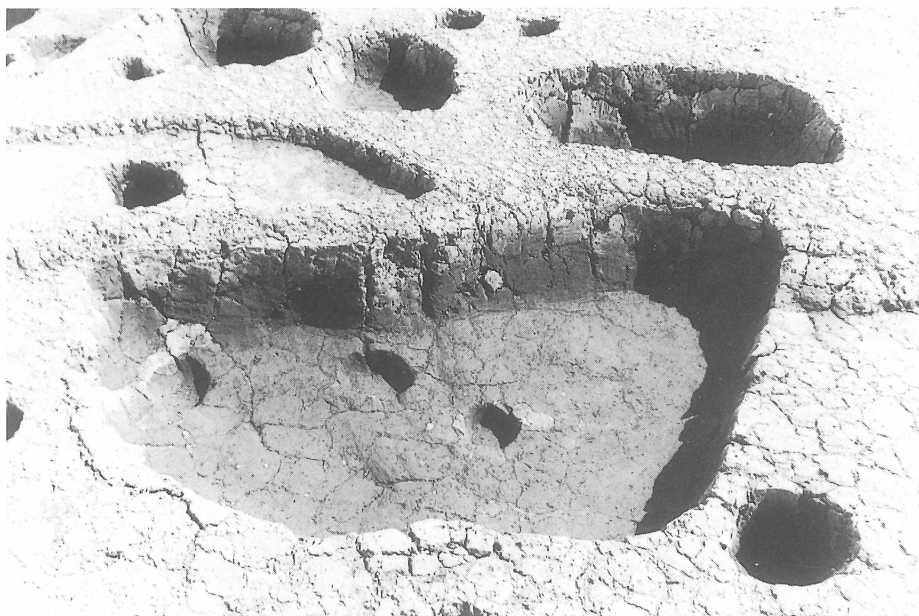
(3) 柳遺跡 4次 SK 6 4



(2) 柳遺跡 4次 SB 3 3



(4) 柳遺跡 4次 SK 6 5



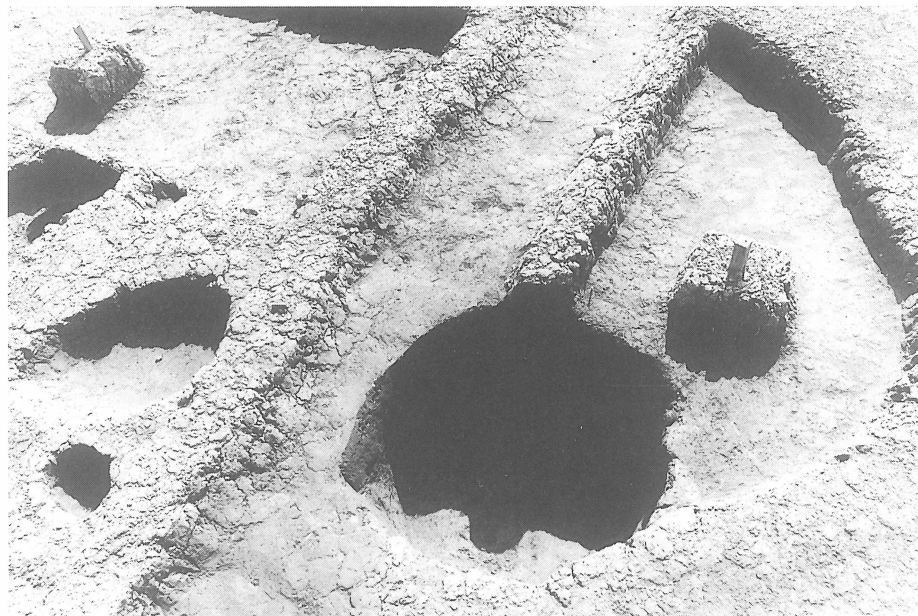
(1) 柳遺跡 4次 SK 67



(3) 柳遺跡 4次 SK 74



(2) 柳遺跡 4次 SK 72



(4) 柳遺跡 4次 SK 75



(1) 柳遺跡 4次 SK 88



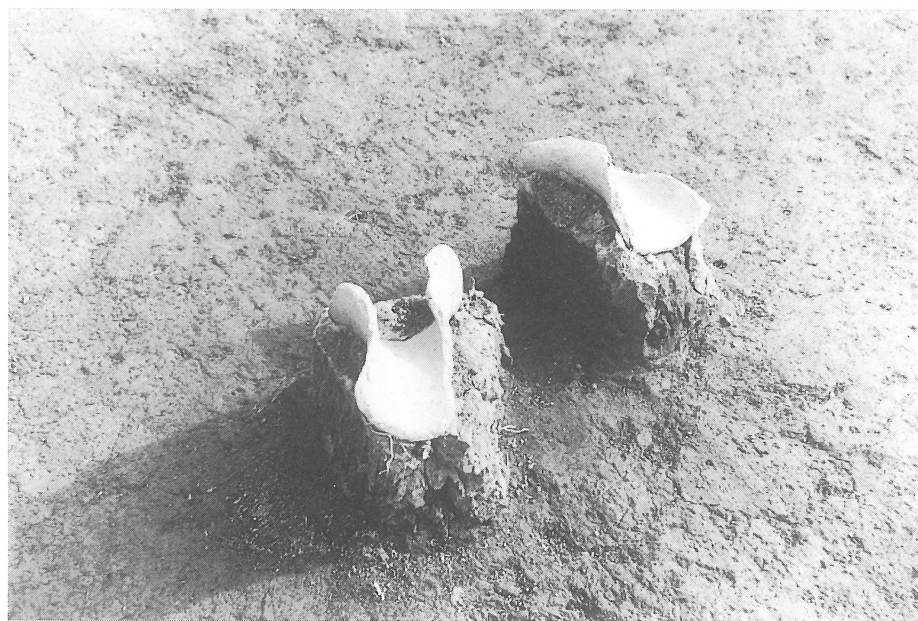
(2) 柳遺跡 4次 SD 17



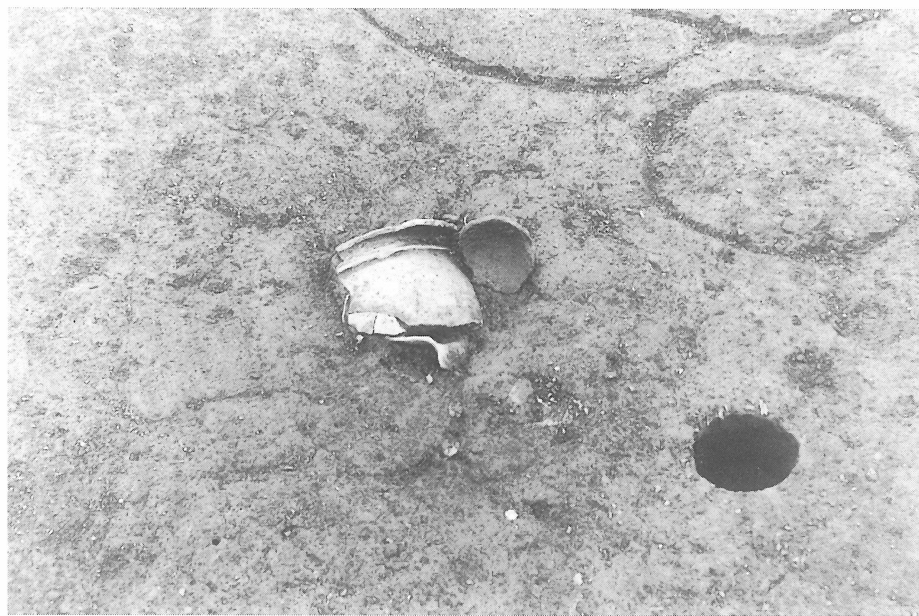
(3) 柳遺跡 4次 SD 16



(1) 柳遺跡 4 次 SB 22 出土石製品



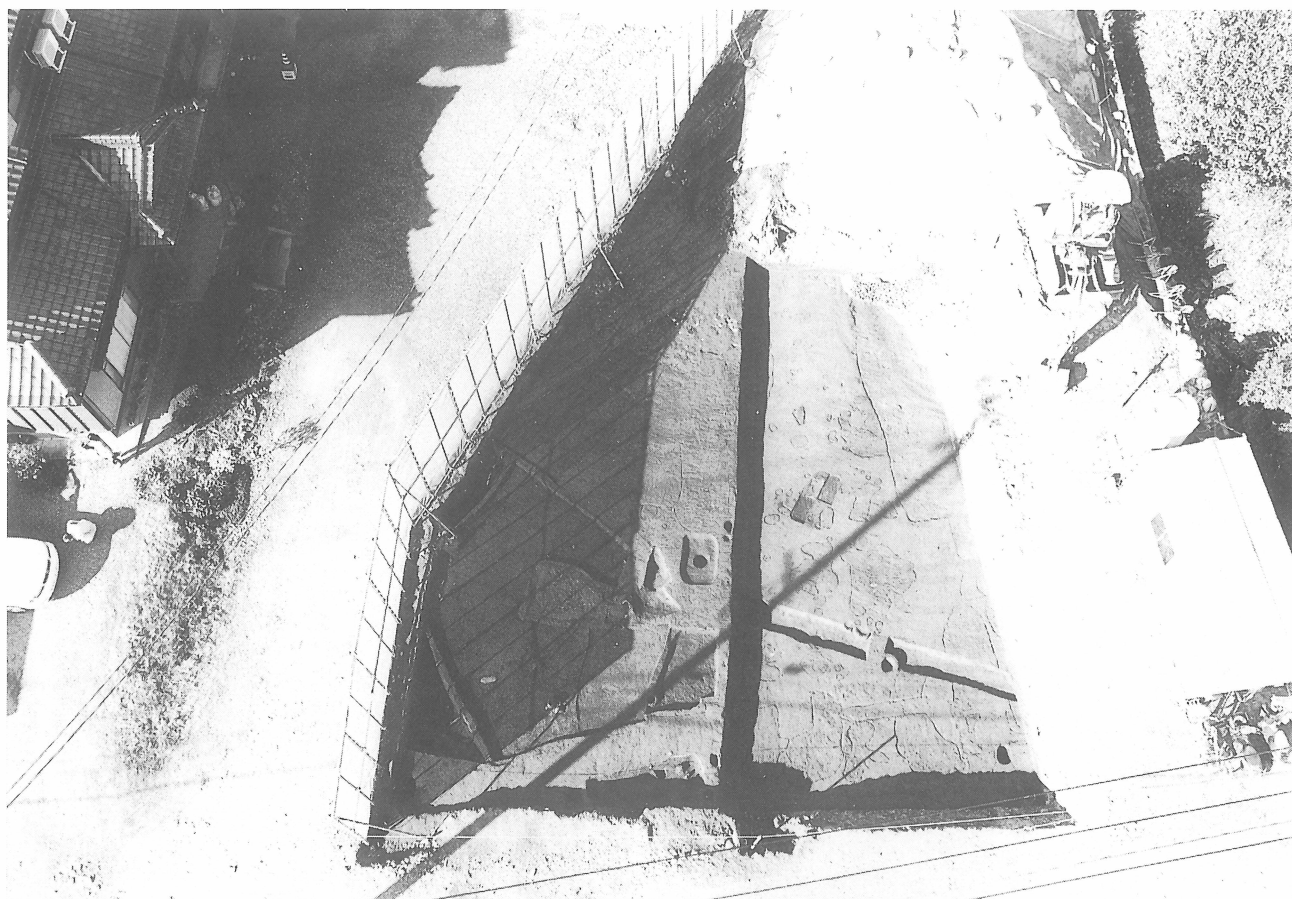
(3) 柳遺跡 4 次 SB 33 出土土器



(2) 柳遺跡 4 次 SB 28 出土土器



(4) 柳遺跡 4 次 SD 17 出土土器



(1) 船底遺跡 2次 航空写真



(2) 船底遺跡 2次 全景 (西から)



(1) 船底遺跡 2次 SB01~06



(3) 船底遺跡 2次 SB08



(2) 船底遺跡 2次 SB07



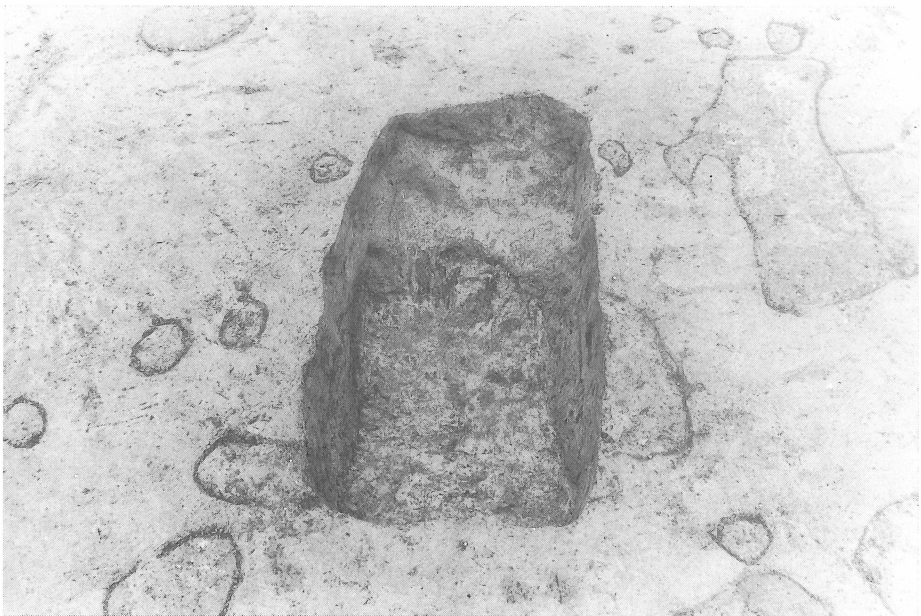
(4) 船底遺跡 2次 SB03 出土土器



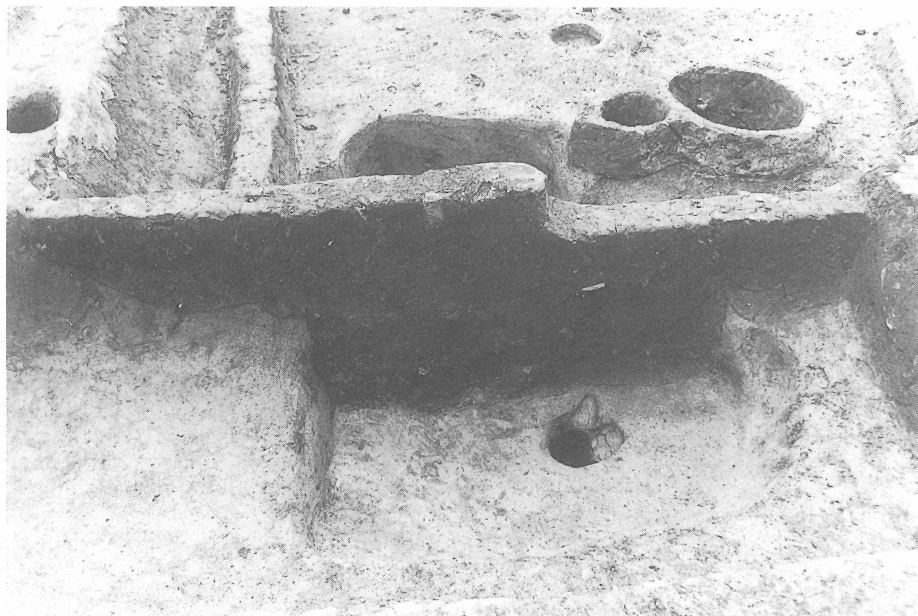
(1) 船底遺跡 2次 SK01



(3) 船底遺跡 2次 SK02



(2) 船底遺跡 2次 SK01



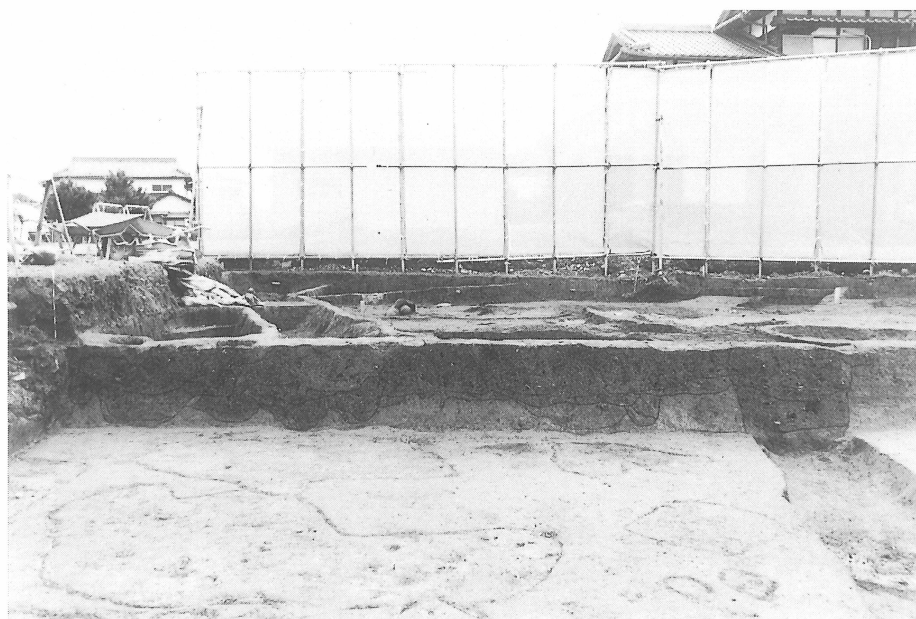
(4) 船底遺跡 2次 SK03



(1) 船底遺跡 2次 SD01



(2) 船底遺跡 2次 SD02



(3) 船底遺跡 2次 SD01・02 土層

報告書抄録

ふりがな	いっばんこくどう442ごうやめちくごばいばすまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	一般国道442号八女筑後バイパス埋蔵文化財調査報告書							
副書名	福岡県八女市納楚所在遺跡の調査報告書							
巻次	VI							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第90集							
編著者名	中川 寿賀子							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やなぎいせき 柳遺跡 (4次調査)	ふくおかけん 福岡県 やめしのうそ 八女市納楚	402109		33°12'58"	130°34'23"	2009 06 01 ~2010 03 12	約410㎡	道路建設
ふなぞいせき 船底遺跡 (2次調査)	ふくおかけん 福岡県 やめしのうそ 八女市納楚			33°12'58"	130°34'22"	2009 10 29 ~2010 03 12	約230㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
柳遺跡 (4次調査)	集落	弥生～奈良	住居跡・土壇・溝		弥生式土器・石器 ガラス玉 須恵器・土師器			
船底遺跡 (2次調査)	集落	弥生～奈良	住居跡・土壇・溝		弥生式土器・石器 ガラス玉 須恵器・土師器			

埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

八女市文化財調査報告書
第 90 集

平成 23 年 3 月 31 日

発行	八女市教育委員会
	八女市本町 6 4 7
印刷	(資) 東兄弟印刷所
	八女市祈祷院 5 6 3